

第1章 総則

《危機管理室》

第1節 計画の方針

第1 計画の目的

この計画は、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第42条の規定に基づき、大規模な地震災害に対処するため、広島市防災会議が作成する計画である。本計画の目的は、市域における地震災害に係る災害予防、災害応急対策に関して、本市及び防災関係機関等が行うべき事項を定めることにより、総合的かつ計画的な防災行政の推進を図り、市民の生命、身体及び財産を地震災害から保護することである。

第2 計画の位置付け

- 1 この計画は、地震災害に対処するための基本的な計画を定めるものであり、広島市地域防災計画の「震災対策編」として位置付ける。
- 2 この計画は、平成25年度に広島県が公表した「広島県地震被害想定」を基に実施した「平成25年度広島市地震被害想定」において想定された地震災害に対処するための基本的な計画であり、その活動の指針となるものである。

第3 計画の構成及び内容

この計画の構成及び内容は、次のとおりとし、この計画に定めのない事項については、広島市地域防災計画（基本・風水害対策編）によるものとする。

- 1 **総則**
想定する地震災害等について定める。
- 2 **震災予防計画**
地震災害の発生を未然に防止し、又は被害を最小限にとどめるため、本市及び防災関係機関等がとるべき措置等について定める。
- 3 **震災応急対策**
地震発生直後から応急復旧の終了に至るまでの間において、主として本市災害対策本部がとるべき措置等について定める。
- 4 **津波災害対策**
津波災害の発生を未然に防止し、又は被害を最小限にとどめるための総合的な津波災害対策の基本的考え方等について定める。

第4 計画の修正

この計画は、災害対策基本法第42条の規定に基づき、毎年検討を加え、必要があると認めるときは、これを修正するものとする。

第5 細部計画の策定

この計画に基づく諸活動の展開に必要な細部計画（地域防災計画に規定する対策を効果的に実施するための具体的な活動要領を記載したマニュアル等）については、本市各局等及び各区並びに防災関係機関等においてあらかじめ定めておくこととし、かつ、今後、関係機関等との連携を図りながら、適宜修正・見直しを行っていくこととする。

第6 計画の習熟

本市各局等及び各区並びに防災関係機関等は、平素からこの計画及びこの計画に関連する他の計画の習熟に努めるものとする。

第2節 本市の概況

第1 自然条件等

本市は、中国山地を背にし、瀬戸内海に面した都市であり、平地部の面積は市域面積の約17%に満たない。

平地部は、太田川デルタとその上流に続く沖積低地が主体であり、その他の平地部は、八幡川・瀬野川・安川等に沿って分布する。臨海部には、藩政時代の干拓、明治以降の埋立てによって造成された人工平地が広がる。そこは満潮位以下になる、いわゆる「ゼロメートル地帯」であり、かつ、軟弱地盤に砂層がのる「液状化危険地帯」である。また、デルタ地域は、太田川の6本の派川によって分断されている。

山地部・丘陵部の大部分は、花崗岩類とこの花崗岩類に貫入された古生層の流紋岩類からなるが、防災上特に問題なのは風化しやすい花崗岩類である。平地部周辺の丘陵地では、深層風化によって脆くなった風化花崗岩「真砂土」が厚く分布しているため、集中豪雨等によって斜面崩壊や土石流が発生しやすい。

第2 既往の地震等

1 有感地震

本市における有感地震（人体に感じる地震）は、平成11年までは年平均5～6回程度であったが、平成12年10月に発生した「鳥取県西部地震」及び平成13年3月に発生した「芸予地震」の余震活動により、平成12～13年は30～40回程度に増えた。平成14年以降は、余震活動も減衰し、10回から20回程度となっている。

1920年以降において、一般的に市民が恐怖を感じる震度4以上の地震は、1921年（大正10年）、1978年（昭和53年）、1983年（昭和58年）、2000年（平成12年）、2001年（平成13年）、2006年（平成18年）、2014年（平成26年）に発生した。最近では、2016年（平成28年）に鳥取県中部を震源とした地震により震度4を観測した。

注）1．1996年（平成8年）4月から震度観測は体感による観測から計測震度計による観測となり、有感地震（震度1以上）としている。

2．広島市域での震度観測点は、広島地方気象台のみから1998年（平成10年）10月から9地点、2004年（平成16年）1月から12地点、2011年（平成23年）1月からは10地点となっている。

2 被害地震

本市における既往の被害地震についてみると、有史以来数十回記録している。

このうち、資料が明らかで最大の被害があったのは、1905年（明治38年）6月2日に発生した芸予地震である。

表1-2-1 広島市における被害地震

発 生 年月日	震源地 又は地震名	震源要素等			広島市の状況			全体の津 波の状況
		北緯	東経	マグニチュード	震度	震央距離	被害程度	
684.11.19	南海道沖	32.3～33.3°	133.5～135.0°	8.3	5	230	不明	10～20m
887. 8.26	南海道沖	33.0°	135.0°	8.0～8.5	5	286	不明	10～20m
1099. 2.22	南海道沖	32.5～33.5°	135.0～136.5°	8.0～8.3	5	325	不明	-
1361. 8. 3	南海道沖	33.0°	135.0°	8.0～8.5	5	286	不明	10～20m
1605. 2 .3	南海道沖	33.0°	134.9°	7.9	5	278	不明	10～20m
1649. 3.17	安芸・伊予	33.7°	132.5°	7.0±1/4	5以上	83	家屋倒壊はまれ	無し
1686. 1. 4	安芸・伊予	34.0°	132.6°	7.0～7.4	5以上	43	家屋倒壊はまれ	無し
1707.10.28	宝永地震	33.2°	135.9°	8.4	5	347	家屋倒壊はまれ	30m以上
1854.12.24	安政南海地震	33.0°	135.0°	8.4	5以上	323	家屋倒壊はまれ	30m以上
1854.12.26	伊予西部	33.3°	132.0°	7.3～7.5	-	-	不明	無し
1857.10.12	安芸・伊予	34.0°	132.5°	7 1/4±0.5	5程度	56	家屋倒壊はまれ	無し
1872. 3.14	島根県西部	35.2°	132.1°	7.1±0.2	5	72	家屋倒壊はまれ	無し

1905. 6. 2	安芸灘	34.1°	132.5°	7 1/4	5 以上	31	家屋倒壊かなりあり。県内死者 11 名	無し
1946. 12. 21	南海道沖	33.0°	135.6°	8.0	4 程度	353	負傷者あり。家屋、道路の被害	4~6m
1949. 7. 12	安芸灘	34.1°	132.7°	6.2	3	48	県内死者 2 名。道路の亀裂多し	無し
2000. 10. 6	鳥取県西部	35.17°	133.21°	7.3	4	126	軽傷者あり。ガラス窓・壁破損、屋根瓦被害	無し
2001. 3. 24	安芸灘	34.07°	132.43°	6.7	5 強	38	半壊 112 棟。一部損壊 6,715 棟。重傷 10 名、軽傷 18 名など	無し
2006. 6. 12	大分県西部	33.08°	131.26°	6.2	4	—	軽傷 2 名	無し
2011. 11. 21	広島県北部	34.9°	132.9°	5.4	3	71	軽傷 1 名	無し
2014. 3. 14	伊予灘	33.7°	131.9°	6.2	4	78	軽傷 5 名	無し

第3 地震災害からみた地域特性

1 地盤の概要

本市の地形は、平地と山地に大きく二分でき、それぞれの地形に対応する特徴的な地盤が見られる。

太田川沿いに広がる平地は、地形の性質上、可部付近から太田川放水路への分岐点付近までを太田川下流低地、より下流部を太田川三角州地帯と呼び区分される。

(1) 太田川三角州地帯

太田川三角州地帯には、広島市の市街地の主要部が立地している。太田川三角州を構成する地盤は花崗岩を基盤とし、その上にのる地盤の構成層は下位から順に、基底砂礫層、下部砂層又は流積マサ土層、上部粘土層、上部砂礫層、最上部層に区分される。下部砂層から上位の層は沖積層であり、基底砂礫層は洪積層である。基盤となる花崗岩は中生代以前の貫入岩で、山地を構成する花崗岩と同じものであるが、風化が進んでおり、地下に分布する場合でも 10m 以上も風化層をもつことがある。

(2) 太田川下流低地

太田川下流低地では、可部付近から下流に扇状地性の低地が分布し、堆積物のほとんどは砂礫からなり、表層部に薄く砂又はシルト質砂層がのっている。この扇状地性の低地は、JR 可部線の古市橋付近まで達しているが、高瀬大橋付近の狭さく部より下流では、表層部の砂質堆積物がやや厚く、5 m ~ 6 m になる。

一方、祇園より下流部は、地盤という点では、太田川三角州の延長部の性格をもつが、細粒な堆積物からなる最上部層が厚いため、表層部の地盤は、太田川三角州よりも悪い。

祇園付近と古市橋付近の間や安古市付近は、扇状地性低地と三角州の延長部との中間的な性質をもつ。

(3) 瀬野川三角州地帯の地盤

瀬野川三角州地帯は、ほとんどが海田町に入るが、縁辺部が広島市域に入っている。北縁の船越南付近では、基底面は -30m を超えるところがあり、基底面は基底砂礫層の上面で、より上部の地盤は、太田川三角州地帯と似ている。南縁部は、矢野川の低地で、基底面は浅く、砂層や砂礫層が卓越する。

(4) 佐伯区の三角州性低地

八幡川と岡の下川で囲まれる三角州性低地は、太田川三角州地帯と同様に、地盤は砂質となり、沖積層は厚くなっている。

(5) その他の地域の特性

比較的規模が大きく、傾斜があまり大きくない谷底地（三篠川などの谷底低地）では、河床堆積物である砂礫がよく発達し、細粒の堆積物は砂質なものが薄くのるだけであることが多い。これに対して、傾斜がかなりあり、扇状地状を呈する地域では、表層部に礫まじりの砂層が比較的厚くのることが多い。

一方、山麓緩斜面や丘陵地の一部などでは、基盤岩の風化物質が厚くなっており、特に、花崗岩からなる地域で著しい。

2 地盤構造からみた地震災害の危険性

(1) 砂質地盤の液状化危険

太田川河口のデルタ地帯には地表面下-30mに達する軟弱な粘土層があり、その粘土層の上に存在する厚さ数メートルの上部砂層は、N値が一般に20以下であり、しかも地下水位が高くなっていることもあって、地震時の液状化という観点からみると、極めて危険度の高い地層となっている。

この上部砂層は、1m前後の表土層のすぐ下から7m~10mくらいの深さまで存在するが、太田川河口のデルタ地帯の扇のかなめである戸坂より上流側を除いては10mを大幅に超えるところはない。

このような地盤条件からみて、新潟、仙台、秋田等における最近の経験を併せて考慮すると、デルタ市街地の大部分は液状化危険地帯であると判断され、特に南部においてその危険性が高い。

(2) 斜面崩壊の危険

降雨による斜面崩壊の危険箇所は、そのまま地震時の危険斜面と考えられる。市域周辺の斜面の大部分は、降雨によって崩壊しやすい風化花崗岩からなっている。

地質的に見て、危険斜面を主に含むものと思われる花崗岩地帯、特に、そのうち風化が深く及んでいると思われる地域は、市域全域にわたっている。

(3) 宅地造成地の危険

山腹を切り盛りして住宅団地を造成すると、普通、一番下に高い擁壁によるひな段式の宅地が造成され、最も高い場所の上に長大切取斜面が残される。地震時に最も危険と思われるのは、この高い擁壁と長大法面の両者である。

また、高盛土が行われた旧谷筋では、降雨時に地下水が集まって流れていることが多いので、盛土のしめ固めが不十分な所では、降雨後に地震が発生すると、液状化の危険性が高いと考えられる。

(4) 水害の危険

広島デルタ地帯のほとんどは明治以前の古い干拓地であるため、最近の沿岸埋立地以外はいわゆる海拔「ゼロメートル地帯」が多くなっている。このため、大規模な地震が発生した場合、海岸寄りの地域が広い範囲にわたって液状化現象による災害を受ける可能性があり、この結果、海岸及び河川堤防の破壊による水害の問題が想定される。

第3節 地震被害想定

本市域に影響を及ぼす地震の想定とこれに基づく被害の予測を行い、震災対策の基礎資料とするため、平成25年度に広島県が公表した「広島県地震被害想定調査」を基に、行政区又は小学校区ごとの詳細分析を行い、「平成25年度広島市地震被害想定」を取りまとめた。

第1 「地震被害想定調査」の見直し

中央防災会議においては、平成23年3月に発生した東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）の地震・津波を調査分析し地震・津波対策を検討する「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会」が設置（平成23年4月）され、「今後、地震・津波の想定を行うにあたっては、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの巨大な地震・津波を検討していくべきである。」と報告された。

また、内閣府に設置された「南海トラフの巨大地震モデル検討会」（平成23年8月設置）では、想定すべき最大クラスの対象地震の設定方法が検討されるとともに、中央防災会議防災対策推進検討会議の下に設置された「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」（平成24年4月設置）では、南海トラフ巨大地震が発生した場合

の被害想定の手法等について検討され、想定に関する方針や手法等が確立した。

広島県においては、こうした国の検討等を踏まえ、平成18年度の県地震被害想定を見直すこととし、平成25年10月、県域において想定しうる最大クラスの地震が発生した場合の被害想定を取りまとめを行った。

本市においても、同様に平成19年度の広島市地震被害想定を見直すこととし、広島県から本市域に係る解析データを入手の上、「南海トラフ巨大地震」などの想定地震ごとに、行政区・小学校区単位で人的・物的被害等を推計する作業を行い、本市の地震被害想定を取りまとめた。

想定地震については、「平成25年度広島県地震被害想定調査」を参考に、広島市における過去の地震被害及び活断層の分布状況から、次の基準により選定した。

《想定地震の選定基準》

- ① 歴史的に繰り返し発生し、将来発生する可能性が高い地震
- ② 地震調査研究推進本部が長期評価を行っている「主要活断層帯」による地震
- ③ 地震規模及び本市と震源との距離から、発生した際に本市に及ぼす被害が甚大となる可能性が高い地震

なお、選定した想定地震のうち、震源が海域に位置するものについては、津波についても併せて被害想定を行うこととした。

表1-3-1 選定した想定地震

想定地震	選定基準※1			想定対象		参考
	①	②	③	地震	津波	
1 プレート間の地震 南海トラフ						昭和21年(1946年)南海地震 安政元年(1854年)安政南海地震 宝永4年(1707年)宝永地震
1)南海トラフ巨大地震	○	○	○	○	○	
2 プレート内の地震 日向灘及び南西諸島海溝周辺						平成13年(2001年)芸予地震 昭和24年(1949年)安芸灘 明治38年(1905年)芸予地震 安政4年(1857年)芸予地震
2)安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震	○	○	○	○	○	
3 地殻内の地震 五日市断層帯						平成12年(2000年)鳥取県西部地震 明治5年(1872年)浜田地震
3)五日市断層による地震		○	○	○	—	
4)己斐-広島西縁断層帯による地震		○	○	○	—	
岩国断層帯						
5)岩国断層帯による地震		○	○	○	—	
安芸灘断層群※2						
6)広島湾-岩国沖断層帯による地震		○	○	○	○	

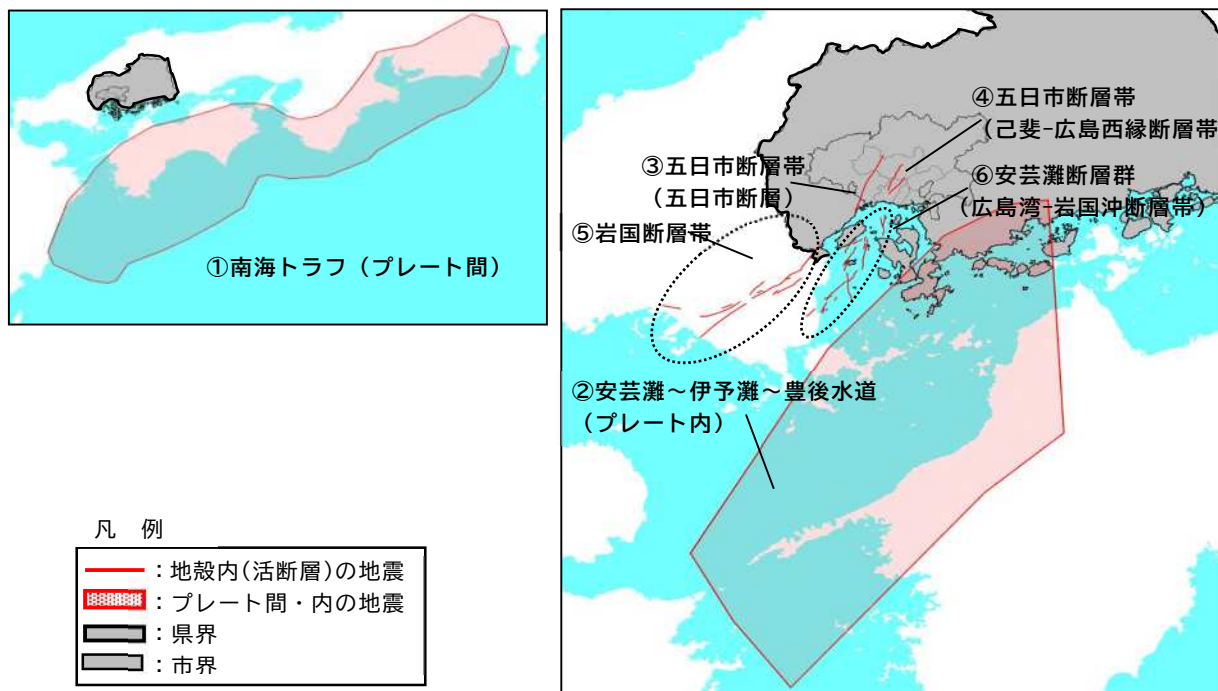
※1 選定基準

- ①歴史的に繰り返し発生し、将来発生する可能性が高い地震
- ②地震調査研究推進本部が長期評価を行っている「主要活断層帯」による地震
- ③地震規模及び本市と震源との距離から、発生した際に本市に及ぼす被害が甚大となる可能性が高い地震

※2 安芸灘断層群

安芸灘断層群は平成28年から、新たな知見により、断層の位置関係や連続性を再整理し、「安芸灘断層帯」、「広島湾-岩国沖断層帯」の2つの断層帯に区分されている。

図1-3-1 想定地震の震源域・活断層等



第2 「平成25年度広島市地震被害想定」の結果一覧

「平成25年度広島市地震被害想定」の結果は、次表のとおりである。この表を利用するにあたっては、次の事項に注意を要する。

- 1 想定地震の選定は、地震調査本部の「基盤的調査観測対象活断層」や広島県の「広島県地震被害想定調査報告書（平成25年10月）」等から、本市に及ぼす被害が甚大となる可能性の高い地震を対象としていること。
- 2 地震被害の様相と規模は地震発生の季節、時刻によって著しく異なる。そのため、表では想定地震ごとに、被害が甚大となるとと思われる「季節-時刻ケース」に分けて示していること。
- 3 被害想定とは、最悪の条件を設定したうえで、過去の被害から学術的に導かれる被害の最大値である。現実には悪条件すべてがかかわることは稀有であるから、実際に起こる被害は、ほとんどの場合、ここで示される数値より小さく現れることに留意する必要がある。被害想定の数値は、数値そのものに意味があるのではなく、当該地域にとってどのような種類の被害が、どの程度に起こり得るかの目安として、それに対してどのような対策がなされるべきかといった指針として利用するのが望ましいこと。
- 4 被害想定結果の数値は、主に250mメッシュ単位で試算しているとともに、区ごと又は小学校区ごとに、その面積に応じて按分・積算していることから、数点が積み重ねられたものであること。

表1-3-2 平成25年度広島市地震被害想定結果（概要）

想定項目	想定地震	南海トラフ 巨大地震	安芸灘～ 伊予灘～ 豊後水道	五日市断層	己斐～広島西 緑断層帯	岩国断層帯	安芸灘断層群 (広島湾～岩 国沖断層帯)	
		陸側ケース 津波ケース1	北から破壊	北から破壊	北から破壊	東から破壊	北から破壊	
		マグニチュード	9.0	7.4	7.0	6.5	7.6	7.4
		地震タイプ	プレート間	プレート内	地殻内	地殻内	地殻内	地殻内
今後30年以内の発生確率		-	40%	不明	不明	0.03～2%	不明	
地震動・ 液状化	震度6弱以上のエリア	中区, 東区, 南区, 西区, 安佐南区, 安佐北区, 安芸区, 佐伯区	中区, 東区, 南区, 西区, 安佐南区, 安佐北区, 安芸区, 佐伯区	中区, 東区, 南区, 西区, 安佐南区, 安佐北区, 安芸区, 佐伯区	中区, 東区, 南区, 西区, 安佐南区, 安佐北区, 安芸区, 佐伯区	なし	中区, 東区, 南区, 西区, 安佐南区, 安佐北区, 安芸区, 佐伯区	
	市全面積に対する面積率	3.1%	13.9%	15.6%	14.4%	0.0%	6.1%	
	市全面積に対する液状化危険度面積率 (PL>15の面積率)	8.6%	8.6%	8.6%	8.6%	6.1%	8.5%	
土砂 災害	①急傾斜地	4	28	48	76	0	6	
	②地すべり	0	0	0	0	0	0	
	③山腹崩壊	6	47	64	85	0	12	
津波 被害	津波の浸水面積 (ha)	3,817	2,824	-	-	-	1,955	
建物 被害	全壊の主な原因	液状化	津波	揺れ	揺れ	液状化	液状化	
	全壊棟数 (棟)	18,696	9,272	4,738	6,299	2,043	4,003	
	半壊棟数 (棟)	44,120	35,139	21,778	26,949	3,831	20,388	
	焼失棟数 (棟) *1	0	18	18	36	0	9	
人的 被害	死傷者数が最大となる発災季節・時間	冬・深夜	冬・深夜	冬・深夜	冬・深夜	冬・18時	冬・深夜	
	死傷者の主な原因	津波	津波	建物倒壊	建物倒壊	建物倒壊	津波	
	死者数 (人)	3,907	4,592	149	246	1	3,089	
	負傷者数 (人)	2,670	5,394	3,782	5,054	79	2,774	
	重傷者数 (負傷者の内数) (人)	642	660	256	422	11	416	
ライフ ライン 施設 被害	上水道 (1日後の断水人口) (人) *1	4,535	4,530	1,144	3,431	0	0	
	下水道 (1日後の機能支障人口) (人) *1	401,156	379,848	348,476	360,801	161,859	333,636	
	電力 (直後の停電軒数) *1	73,443	90,306	24,107	30,963	413	58,888	
	通信 (直後の固定電話不通回線数) *1	38,060	46,746	12,091	15,611	207	29,628	
	都市ガス (1日後の供給停止戸数) *1	120,628	119,374	0	0	0	80,521	
交通 施設 被害	道路 (被害箇所数)	266	289	241	239	73	199	
	鉄軌道 (被害箇所数)	199	252	199	226	54	159	
	港湾 (揺れによる被害箇所数)	25	52	52	54	20	55	
生活 支障	避難所避難者数 (当日・1日後) (人) *1	172,041	129,180	13,108	17,165	4,012	94,870	
	帰宅困難者数 (人) *3	78,385	78,385	78,385	78,385	78,385	78,385	
	食料の需要量 (当日・1日後) (食) *1	619,349	465,049	47,188	61,795	14,442	341,531	
	仮設トイレの需要量 (当日・1日後) (基) *1	5,144	4,672	3,577	3,727	1,653	4,015	
	医療機能支障 (医療需要過不足数) (<0:不足) *2	38	464	1,682	1,462	2,100	1,138	
災害廃 棄物	災害廃棄物発生量	可燃物 (万t) *1	33.43	15.29	7.98	10.79	3.17	6.44
		不燃物 (万t) *1	101.38	59.01	29.34	37.85	14.27	26.59
その他 の被害	エレベータ内閉じ込め者数 (人) *4	111	152	143	143	38	89	
	危険物施設の被害箇所数 (箇所)	8	23	17	22	0	14	
	ため池 (災害発生の危険性が高いため池の箇所数)	0	0	0	1	0	0	
	重要施設	①行政庁舎等	20	23	26	31	11	21
		②避難拠点施設	290	463	419	462	100	336
③医療施設		20	34	31	35	7	28	
経済 被害	直接被害 (億円) *1	23,610	17,236	9,261	10,841	4,097	10,656	
	間接被害 (億円) ※広島県全体 *1	37,477	28,082	8,522	8,206	5,417	12,379	

※ は、被害の最大値を示す

*1: 冬 18時、風速11m/s

*2: 冬 深夜、風速11m/s

*3: 昼12時

*4: 朝7時～8時

第3 被害想定結果

1 想定項目ごとの被害の特徴

(1) 建物被害

建物被害のうち全壊棟数については、想定地震の中で「南海トラフ巨大地震」の場合が最多となっており、次いで「安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震」の場合が多くなっている。

「南海トラフ巨大地震」による全壊棟数が多くなっている要因としては、液状化によるところが最も大きく、次いで津波によるところが大きくなっている。

「安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震」による全壊棟数が多くなっている要因とし

ては、津波によるところが最も大きく、次いで揺れによるところが大きくなっている。

(2) 人的被害

人的被害のうち死者数については、想定地震の中で「安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震」の場合が最多となっており、次いで「南海トラフ巨大地震」の場合が多くなっている。

「安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震」及び「南海トラフ巨大地震」による死者数が多くなっている要因としては、いずれも津波によるところが最も大きく、次いで建物倒壊によるところが大きくなっている。

(3) ライフライン施設被害

上水道の断水人口、下水道の機能支障人口及び都市ガスの供給停止戸数については、想定地震の中で「南海トラフ巨大地震」の場合が最多となっており、次いで「安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震」の場合が多くなっている。

停電軒数及び固定電話不通回線数については、想定地震の中で「安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震」の場合が最多となっており、次いで「南海トラフ巨大地震」の場合が多くなっている。

(4) 生活支障

発災当日・1日後の避難所避難者数については、想定地震の中で「南海トラフ巨大地震」の場合が最多となっており、次いで「安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震」の場合が多くなっている。避難者数は、基本的には時間の経過に伴い逡減する見込みである。

帰宅困難者数については、震度5弱以上で公共交通機関が点検等のため停止することを前提としたことから、想定地震すべての場合において同じ人数となっている。

(5) 経済被害

建物やライフライン施設、その他の公共施設などに係る直接経済被害額については、想定地震の中で「南海トラフ巨大地震」の場合が最多となっており、次いで「安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震」の場合が多くなっている。

2 地震動等の予測

(1) 地震動

ア 南海トラフ巨大地震

本市域における最大震度は6弱であり、中区、東区、南区、西区、安佐南区、安芸区、佐伯区の7区に分布する。震度6弱の面積率は市全域の3.1%、中区で最大の35.8%となる。

イ 安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震

本市域における最大震度は6弱であり、8区全てに分布する。震度6弱の面積率は市全域の13.9%、中区で最大の99.9%となる。

ウ 五日市断層による地震

本市域における最大震度は6強であり、安佐南区、佐伯区の2区に分布する。震度6強の面積率は市全域の0.7%、佐伯区で最大の2.4%となる。

エ 己斐－広島西縁断層帯による地震

本市域における最大震度は6強であり、中区、東区、西区、安佐南区の4区に分布する。震度6強の面積率は市全域の1.2%、安佐南区で最大の6.5%となる。

オ 岩国断層帯による地震

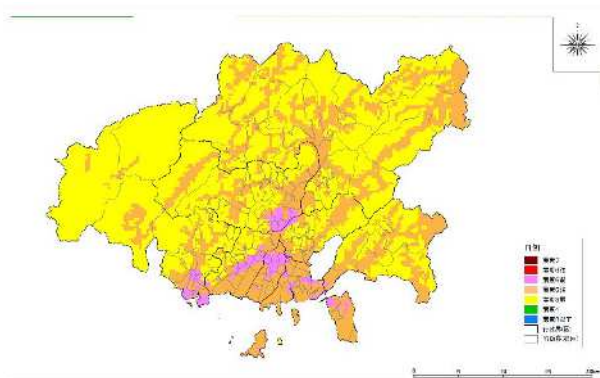
本市域における最大震度は5強であり、安佐北区を除く7区に分布する。震度5強の面積率は市全域の6.1%、中区で最大の79.1%となる。

カ 安芸灘断層群（広島湾－岩国沖断層帯）による地震

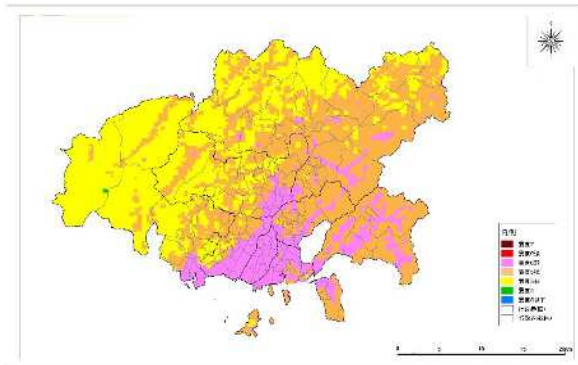
本市域における最大震度は6弱であり、安佐北区を除く7区に分布する。震度6弱の面積率は市全域の6.1%、中区で最大の78.3%となる。

図1-3-2 震度分布図

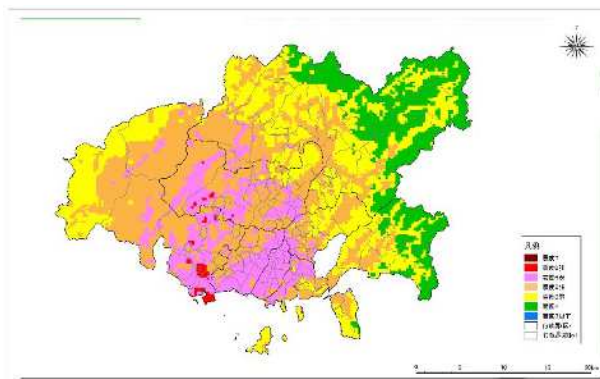
南海トラフ巨大地震



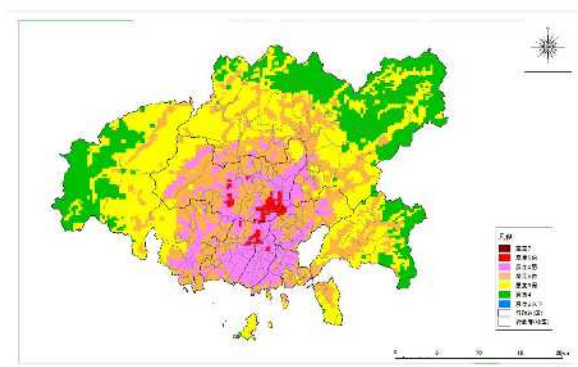
安芸灘～伊予灘～豊後水道



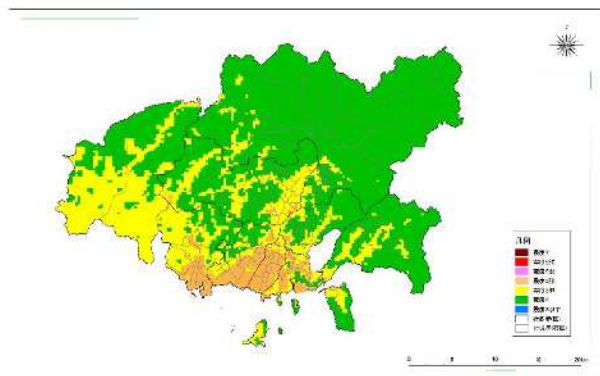
五日市断層



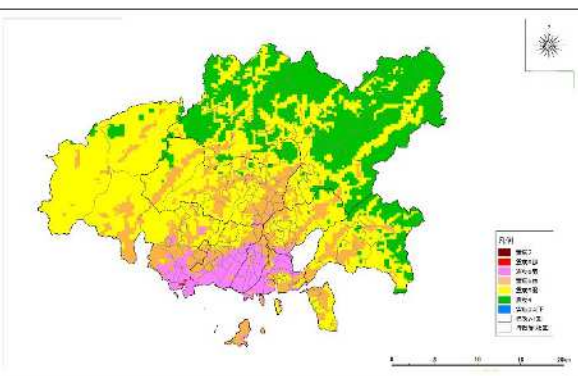
己斐-広島西縁断層帯



岩国断層帯



安芸灘断層群（広島湾-岩国沖断層帯）



(2) 液状化

ア 南海トラフ巨大地震

危険度が極めて高い(30<PL)領域は、安佐北区を除く7区に分布する。その面積率は市全域の6.0%、中区で最大の89.5%となる。

イ 安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震

危険度が極めて高い(30<PL)領域は、8区全てに分布する。その面積率は市全域の8.5%、中区で最大の99.4%となる。

ウ 五日市断層による地震

危険度が極めて高い(30<PL)領域は、安佐北区を除く7区に分布する。その面積率は市全域の7.5%、中区で最大の99.4%となる。

エ 己斐-広島西縁断層帯による地震

危険度が極めて高い(30<PL)領域は、区全てに分布する。その面積率は市全域の8.3%、中区で最大の99.4%となる。

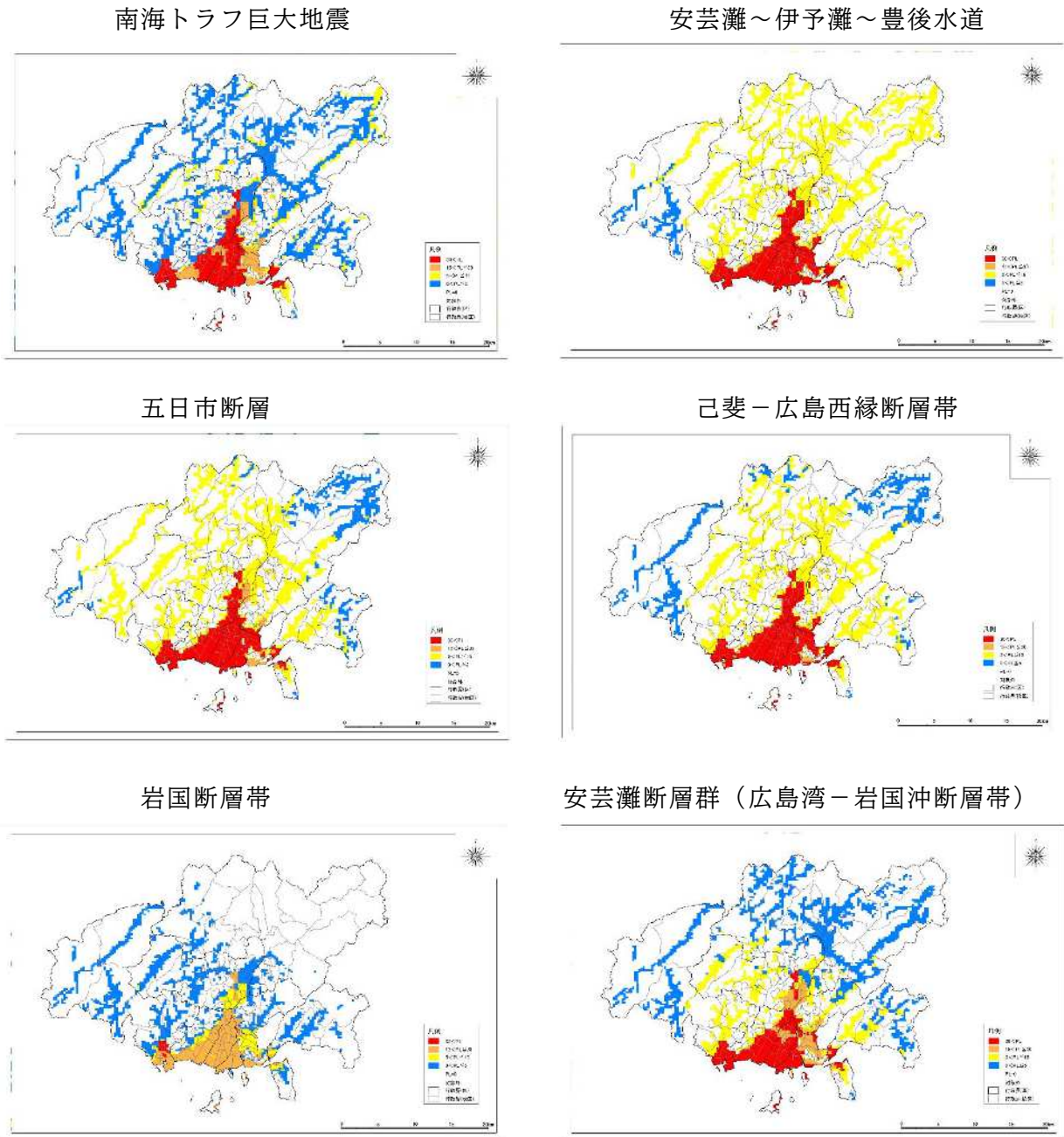
オ 岩国断層帯による地震

危険度が極めて高い(30<PL)領域は、佐伯区にのみ分布する。その面積率は市全域の0.2%、佐伯区で最大の0.8%となる。

カ 安芸灘断層群（広島湾－岩国沖断層帯）による地震

危険度が極めて高い(30<PL)領域は、安佐北区を除く7区に分布する。その面積率は市全域の6.1%、中区で最大の82.4%となる。

図1-3-3 液状化危険度分布図（PL値）



(3) 津波

想定地震のうち、「南海トラフ巨大地震」、「安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震」、「安芸灘断層群（広島湾－岩国沖断層帯）による地震」については、津波による被害を想定した。

被害想定を行う上で必要となる津波解析は、広島県の既往調査「広島県地震被害想定調査報告書（平成25年10月）」の解析結果を用いた。

構造物が機能しない場合：地震発生から3分後に、盛土構造物※¹は25%の高さ、
[構造物なし]

構造物が機能する場合 [構造物あり]：津波が構造物を越えるまでは当該構造物は機能し、越流すると構造物なし（その区間は破堤する。）とすることとした。

※1 盛土構造物：横断図、台帳や航空写真に基づき、盛土構造物が確認できるもの

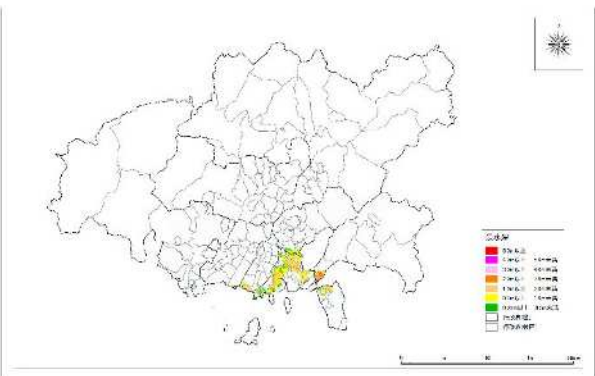
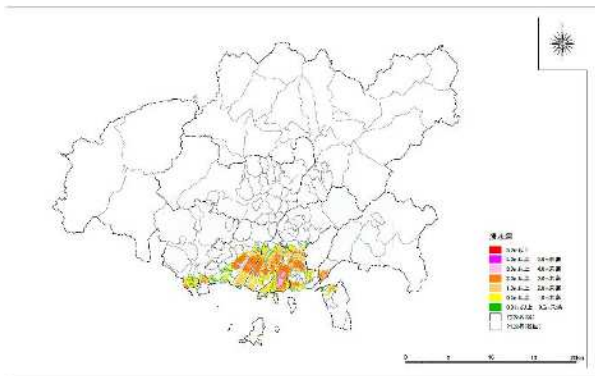
※2 コンクリート構造物：盛土構造物以外のもの

図1-3-4 最大浸水深分布図

南海トラフ巨大地震

[構造物なし]

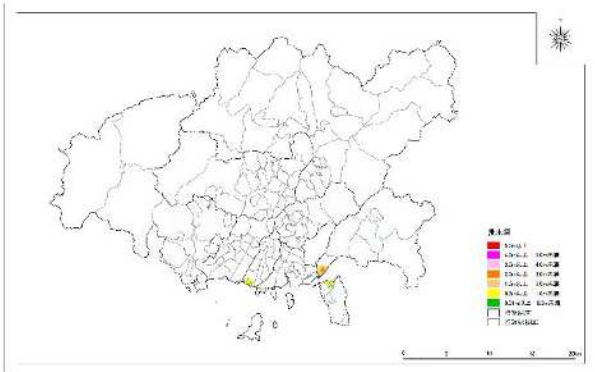
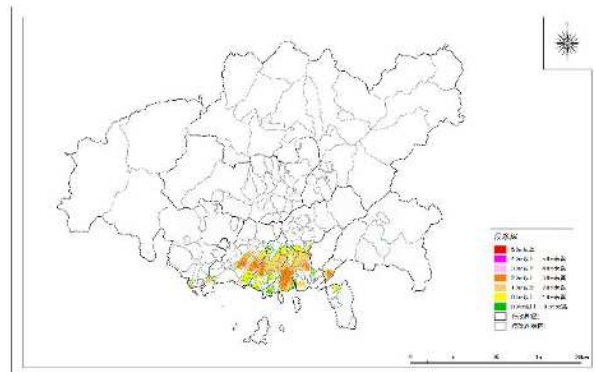
[構造物あり]



安芸灘～伊予灘～豊後水道

[構造物なし]

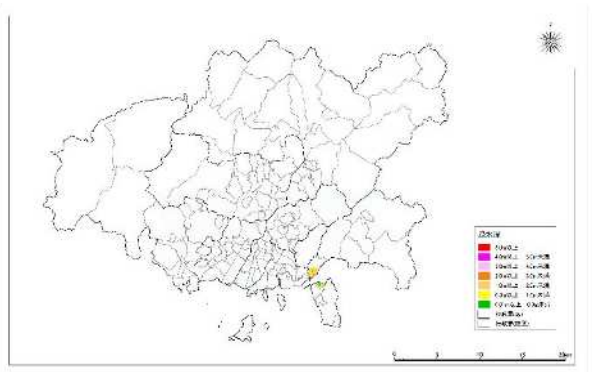
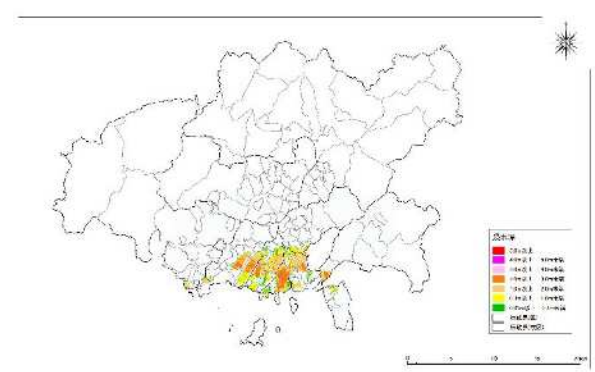
[構造物あり]



安芸灘断層群（広島湾～岩国沖断層帯）

[構造物なし]

[構造物あり]



3 被害の想定

(1) 建物被害

揺れ、液状化、土砂災害、火災を原因とする全壊棟数、半壊棟数を 250m メッシュ単位で、津波を原因とする場合は 10m メッシュ単位で想定した。

表1-3-3 建物被害棟数 (冬 深夜 風速 11m/s)

地震名	南海トラフ巨大地震												
	建物被害												
	揺れ (棟)		液状化 (棟)		土砂災害 (棟)		津波 (棟)		合計 (棟)		火災による建物被害 (件)		
	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	出火 件数	残出火 件数	焼失 棟数
中区	31	570	2,963	4,200	0	0	598	1,311	3,592	6,081	0	0	0
東区	2	315	909	1,787	3	7	27	863	940	2,971	0	0	0
南区	9	655	2,734	4,107	5	12	1,681	12,614	4,429	17,388	0	0	0
西区	63	919	2,692	4,198	1	2	587	667	3,343	5,785	0	0	0
安佐南区	43	748	1,876	3,301	3	7	0	0	1,922	4,055	1	0	0
安佐北区	0	178	357	925	3	6	0	0	359	1,109	0	0	0
安芸区	4	395	1,124	1,180	2	4	754	1,738	1,884	3,316	0	0	0
佐伯区	24	509	2,106	2,542	1	2	95	361	2,226	3,415	0	0	0
全市	176	4,289	14,760	22,239	17	39	3,743	17,554	18,696	44,120	3	0	0

地震名	安芸灘～伊予灘～豊後水道												
	建物被害												
	揺れ (棟)		液状化 (棟)		土砂災害 (棟)		津波 (棟)		合計 (棟)		火災による建物被害 (件)		
	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	出火 件数	残出火 件数	焼失 棟数
中区	433	2,780	713	1,038	0	0	772	3,279	1,918	7,097	1	0	0
東区	285	2,179	64	152	4	9	22	546	375	2,887	1	0	4
南区	603	3,533	589	914	7	16	2,072	3,245	3,270	7,708	1	0	4
西区	549	3,369	489	787	1	2	786	2,124	1,825	6,282	1	0	3
安佐南区	297	2,734	129	319	3	8	0	0	430	3,060	1	0	0
安佐北区	19	1,263	104	263	3	7	0	0	126	1,533	1	0	2
安芸区	385	2,713	101	186	2	5	475	1,394	964	4,298	1	0	4
佐伯区	133	1,479	159	360	1	2	72	434	365	2,275	1	0	2
全市	2,704	20,050	2,348	4,018	21	49	4,199	11,022	9,272	35,139	8	0	18

地震名	五日市断層												
	建物被害												
	揺れ (棟)		液状化 (棟)		土砂災害 (棟)		津波 (棟)		合計 (棟)		火災による建物被害 (件)		
	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	出火 件数	残出火 件数	焼失 棟数
中区	179	1,844	713	1,086	0	0	-	-	892	2,930	1	0	2
東区	35	869	64	153	4	8	-	-	103	1,030	1	0	0
南区	41	1,106	589	1,019	5	11	-	-	634	2,136	1	0	3
西区	492	3,804	489	823	1	3	-	-	981	4,630	1	0	2
安佐南区	323	3,030	129	319	4	8	-	-	455	3,358	1	0	3
安佐北区	7	457	87	230	2	6	-	-	97	692	1	0	0
安芸区	2	195	96	190	1	2	-	-	98	387	0	0	0
佐伯区	1,312	6,253	163	358	1	4	-	-	1,477	6,614	2	0	8
全市	2,390	17,558	2,330	4,178	18	42	-	-	4,738	21,778	8	0	18

地震名	己斐－広島西縁断層帯												
区域	建物被害												
	揺れ (棟)		液状化 (棟)		土砂災害 (棟)		津波 (棟)		合計 (棟)		火災による建物被害		
	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	出火 件数	残出火 件数	焼失 棟数
中区	546	3,017	713	1,071	0	0	-	-	1,260	4,089	1	0	0
東区	245	2,140	64	152	4	10	-	-	313	2,302	1	0	2
南区	123	1,685	589	1,016	7	16	-	-	718	2,717	1	0	2
西区	1,034	5,144	489	811	1	3	-	-	1,524	5,958	2	0	9
安佐南区	1,838	7,833	129	308	5	12	-	-	1,972	8,153	4	0	23
安佐北区	38	808	87	229	2	6	-	-	128	1,043	1	0	0
安芸区	1	345	99	199	1	2	-	-	102	546	0	0	0
佐伯区	127	1,783	155	356	1	2	-	-	283	2,141	1	0	0
全市	3,952	22,755	2,325	4,142	22	52	-	-	6,299	26,949	11	0	36

地震名	安芸灘断層群（広島湾－岩国沖断層帯）												
区域	建物被害												
	揺れ (棟)		液状化 (棟)		土砂災害 (棟)		津波 (棟)		合計 (棟)		火災による建物被害		
	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	出火 件数	残出火 件数	焼失 棟数
中区	154	1,730	713	1,078	0	0	161	1,938	1,029	4,746	1	0	0
東区	44	557	59	133	2	6	1	21	107	717	0	0	0
南区	124	1,618	589	1,001	6	13	406	2,754	1,125	5,386	1	0	0
西区	101	1,611	489	820	1	2	174	1,569	765	4,002	1	0	3
安佐南区	2	435	120	295	3	6	0	0	124	736	0	0	3
安佐北区	0	4	36	93	1	3	0	0	37	100	0	0	0
安芸区	0	172	92	174	1	2	189	1,310	282	1,658	0	0	0
佐伯区	363	2,617	155	348	1	2	15	74	534	3,042	1	0	3
全市	789	8,743	2,252	3,943	15	35	947	7,666	4,003	20,388	4	0	9

地震名	岩国断層帯												
区域	建物被害												
	揺れ (棟)		液状化 (棟)		土砂災害 (棟)		津波 (棟)		合計 (棟)		火災による建物被害		
	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	全壊	半壊	出火 件数	残出火 件数	焼失 棟数
中区	0	91	712	1,091	0	0	-	-	712	1,183	0	0	0
東区	0	2	26	54	1	2	-	-	27	58	0	0	0
南区	0	47	567	981	2	5	-	-	569	1,033	0	0	0
西区	0	90	470	791	0	1	-	-	470	882	0	0	0
安佐南区	0	2	70	172	0	1	-	-	71	174	0	0	0
安佐北区	0	0	5	14	0	0	-	-	5	14	0	0	0
安芸区	0	1	53	97	0	1	-	-	54	98	0	0	0
佐伯区	0	78	135	309	1	2	-	-	136	388	0	0	0
全市	0	311	2,039	3,509	5	11	-	-	2,043	3,831	1	0	0

※ 小数点以下の四捨五入により計が合わない場合がある。

(2) 人的被害

建物倒壊（屋内収容物移動・転倒による被害を含む。）、土砂災害、火災、津波等を原因とする死者、負傷者、重傷者数（負傷者の内数）を想定した。

(3) ライフライン施設被害

ア 上水道

水道管及び浄水場を対象とし、揺れ、津波による断水人口を想定した。

表1-3-5 上水道の断水（冬 18時 風速 11m/s）

地震名	南海トラフ 巨大地震	安芸灘～伊予 灘～豊後水道	五日市断層	己斐-広島西縁 断層帯	岩国断層帯	安芸灘断層群
区域	断水人口（人）	断水人口（人）	断水人口（人）	断水人口（人）	断水人口（人）	断水人口（人）
中区	913	1,613	113	811	0	0
東区	664	1,471	31	537	0	0
南区	803	444	11	254	0	0
西区	1,191	739	210	1,327	0	0
安佐南区	451	54	77	434	0	0
安佐北区	38	34	6	12	0	0
安芸区	330	152	1	3	0	0
佐伯区	144	23	695	53	0	0
合計	4,535	4,530	1,144	3,431	0	0

※ 小数点以下の四捨五入により計が合わない場合がある。

イ 下水道

流域下水道、公共下水道、農業集落排水の埋設管（取付管を除く幹線・枝線管渠）及び下水処理場を対象とし、揺れ、津波による下水道機能支障人口を想定した。

表1-3-6 下水道の機能支障（冬 18時 風速 11m/s）

地震名	南海トラフ 巨大地震	安芸灘～伊予灘 ～豊後水道	五日市断層	己斐-広島西縁 断層帯	岩国断層帯	安芸灘断層群
区域	機能支障人口（人）	機能支障人口（人）	機能支障人口（人）	機能支障人口（人）	機能支障人口（人）	機能支障人口（人）
中区	30,420	28,226	26,829	26,777	18,827	29,821
東区	36,088	42,667	31,538	40,281	8,815	29,272
南区	39,320	42,033	30,695	31,111	22,361	43,879
西区	65,899	66,641	68,980	66,347	44,892	76,359
安佐南区	79,365	65,267	76,439	102,427	18,971	53,872
安佐北区	59,908	53,147	33,501	38,140	2,633	17,086
安芸区	37,239	40,985	15,391	17,033	8,354	21,676
佐伯区	52,917	40,881	65,103	38,684	37,006	61,670
合計	401,156	379,848	348,476	360,801	161,859	333,636

※ 小数点以下の四捨五入により計が合わない場合がある。

ウ 電力

揺れ、火災、津波による電柱被害に伴う停電軒数を 250m メッシュで想定した。電力の被害は、火災被害の影響を受けるため、火災による焼失棟数が最大となる冬 18時、風速 11m/s の条件で想定した。

表1-3-7 電力の停電（冬 18時 風速 11m/s）

地震名	南海トラフ 巨大地震	安芸灘～伊予灘 ～豊後水道	五日市断層	己斐-広島西縁 断層帯	岩国断層帯	安芸灘断層群
区域	停電軒数（軒）	停電軒数（軒）	停電軒数（軒）	停電軒数（軒）	停電軒数（軒）	停電軒数（軒）
中区	32,774	35,658	7,144	10,304	117	25,127
東区	1,396	3,383	1,077	2,110	5	461
南区	21,410	27,504	3,087	4,248	81	18,029
西区	16,121	19,436	8,329	10,037	189	13,724
安佐南区	339	828	1,392	2,923	5	74
安佐北区	4	285	145	285	0	2
安芸区	860	2,449	39	39	4	324
佐伯区	538	764	2,894	1,018	12	1,147
合計	73,443	90,306	24,107	30,963	413	58,888

※ 小数点以下の四捨五入により計が合わない場合がある。

エ 通信

市内の加入電話の回線数を対象に、揺れ、火災、津波による電柱被害に伴う固定電話の不通回線数を250mメッシュで想定した。通信の被害は、火災被害による影響を受けるため、焼失棟数が最大となる冬18時、風速11m/sの条件で想定した。

表1-3-8 通信の被害（固定電話）（冬18時 風速11m/s）

地震名	南海トラフ 巨大地震	安芸灘～伊予灘 ～豊後水道	五日市断層	己斐-広島西縁断 層帯	岩国断層帯	安芸灘断層群
区域	不通回線（回線）	不通回線（回線）	不通回線（回線）	不通回線（回線）	不通回線（回線）	不通回線（回線）
中区	6,352	8,884	2,077	3,239	0	5,098
東区	312	609	161	581	0	169
南区	17,866	22,363	415	531	0	11,779
西区	6,635	9,683	1,973	5,058	0	6,479
安佐南区	123	277	1,789	5,591	0	292
安佐北区	0	95	86	117	0	0
安芸区	6,043	4,060	6	4	0	4,358
佐伯区	729	775	5,585	491	207	1,453
合計	38,060	46,746	12,091	15,611	207	29,628

※ 小数点以下の四捨五入により計が合わない場合がある。

オ 都市ガス

市内の都市ガス供給戸数を対象に、安全装置（SIセンサー）の揺れによる作動を250mメッシュ単位で想定し、同装置が制御する低動圧管及び中圧導管ブロックにおけるガス供給戸数から安全装置の動作に伴う供給停止戸数を想定した。併せて、津波による製造設備の被害を10mメッシュ単位で、停電に伴う供給停止戸数を区単位で想定した。

表1-3-9 都市ガスの被害（冬18時 風速11m/s）

地震名	南海トラフ 巨大地震	安芸灘～伊予灘 ～豊後水道	五日市断層	己斐-広島西縁断 層帯	岩国断層帯	安芸灘断層群
区域	供給停止戸数（戸）	供給停止戸数（戸）	供給停止戸数（戸）	供給停止戸数（戸）	供給停止戸数（戸）	供給停止戸数（戸）
中区	32,789	32,753	0	0	0	19,805
東区	3,346	3,343	0	0	0	0
南区	46,652	46,601	0	0	0	27,641
西区	23,510	23,484	0	0	0	20,043
安佐南区	56	55	0	0	0	56
安佐北区	0	0	0	0	0	0
安芸区	2,511	1,385	0	0	0	1,131
佐伯区	11,765	11,753	0	0	0	11,844
合計	120,628	119,374	0	0	0	80,521

※ 小数点以下の四捨五入により計が合わない場合がある。

(4) 交通施設被害

道路

数値地図25000（空間データ基盤）※に記載されている全ての道路を対象とし、津波浸水域は津波による被害箇所を10mメッシュで、津波浸水域外は揺れによる被害箇所を250mメッシュで想定した。

※ 数値地図25000（空間データ基盤）：国土地理院が発行する数値地図データで、25,000分の1地形図に記載されている全ての道路が含まれる。

表1-3-10 道路の被害

地震名	南海トラフ 巨大地震	安芸灘～伊予灘 ～豊後水道	五日市断層	己斐-広島西縁断 層帯	岩国断層帯	安芸灘断層群
区域	被害箇所数（箇所）	被害箇所数（箇所）	被害箇所数（箇所）	被害箇所数（箇所）	被害箇所数（箇所）	被害箇所数（箇所）
中区	31	27	18	18	12	23
東区	16	22	16	20	3	13
南区	45	39	21	22	12	32
西区	37	38	33	33	15	35
安佐南区	32	37	48	53	9	29
安佐北区	54	67	45	46	3	19
安芸区	22	29	11	14	3	14
佐伯区	29	31	49	34	17	34
合計	266	289	241	239	73	199

※ 小数点以下の四捨五入により計が合わない場合がある。

(5) 生活支障

避難者

建物やライフラインの被害に伴い、避難所避難又は疎開が必要となる住居制約者を避難者とみなして、当日・1日後、1週間後、1か月後の避難者を建物被害やライフライン被害が最大となる冬18時、風速11m/sの条件で想定した。

表1-3-11 避難者数(冬18時 風速11m/s)

地震名	南海トラフ巨大地震								
区域	生活支障								
	避難者数 (当日・1日後)			避難者数 (1週間後)			避難者数 (1か月後)		
	(人)			(人)			(人)		
	避難所	避難所外	合計	避難所	避難所外	合計	避難所	避難所外	合計
中区	38,434	19,988	58,422	10,129	4,574	14,703	4,393	10,250	14,642
東区	8,750	4,550	13,300	2,306	1,041	3,347	1,000	2,333	3,333
南区	47,856	24,888	72,744	12,612	5,695	18,307	5,470	12,762	18,232
西区	31,022	16,133	47,156	8,175	3,692	11,867	3,546	8,273	11,819
安佐南区	17,002	8,842	25,845	4,481	2,023	6,504	1,943	4,534	6,477
安佐北区	1,712	890	2,602	451	204	655	196	457	652
安芸区	10,009	5,205	15,214	2,638	1,191	3,829	1,144	2,669	3,813
佐伯区	17,256	8,974	26,230	4,547	2,054	6,601	1,972	4,602	6,574
合計	172,041	89,472	261,513	45,338	20,475	65,813	19,663	45,880	65,543

地震名	安芸灘～伊予灘～豊後水道								
区域	生活支障								
	避難者数 (当日・1日後)			避難者数 (1週間後)			避難者数 (1か月後)		
	(人)			(人)			(人)		
	避難所	避難所外	合計	避難所	避難所外	合計	避難所	避難所外	合計
中区	32,800	16,809	49,609	6,644	2,584	9,228	2,747	6,410	9,158
東区	6,259	3,208	9,466	1,268	493	1,761	524	1,223	1,747
南区	41,145	21,086	62,231	8,335	3,241	11,576	3,446	8,041	11,488
西区	26,263	13,459	39,722	5,320	2,069	7,389	2,200	5,133	7,333
安佐南区	7,384	3,784	11,168	1,496	582	2,077	618	1,443	2,062
安佐北区	1,416	726	2,142	287	112	398	119	277	395
安芸区	8,425	4,318	12,743	1,707	664	2,370	706	1,647	2,352
佐伯区	5,488	2,812	8,300	1,112	432	1,544	460	1,073	1,532
合計	129,180	66,202	195,382	26,168	10,176	36,344	10,820	25,247	36,067

地震名	五日市断層								
区域	生活支障								
	避難者数 (当日・1日後)			避難者数 (1週間後)			避難者数 (1か月後)		
	(人)			(人)			(人)		
	避難所	避難所外	合計	避難所	避難所外	合計	避難所	避難所外	合計
中区	2,928	1,952	4,881	2,440	2,440	4,880	1,464	3,416	4,881
東区	667	444	1,111	556	556	1,111	333	778	1,111
南区	3,646	2,431	6,077	3,038	3,038	6,077	1,823	4,254	6,077
西区	2,364	1,576	3,939	1,970	1,970	3,939	1,182	2,758	3,939
安佐南区	1,295	864	2,159	1,079	1,079	2,159	648	1,511	2,159
安佐北区	130	87	217	109	109	217	65	152	217
安芸区	763	508	1,271	635	635	1,271	381	890	1,271
佐伯区	1,315	877	2,191	1,096	1,096	2,191	657	1,534	2,191
合計	13,108	8,739	21,847	10,923	10,923	21,846	6,554	15,293	21,847

※ 小数点以下の四捨五入により計が合わない場合がある。

地震名	己斐－広島西縁断層帯								
区域	生活支障								
	避難者数 (当日・1日後) (人)			避難者数 (1週間後) (人)			避難者数 (1か月後) (人)		
	避難所	避難所外	合計	避難所	避難所外	合計	避難所	避難所外	合計
	中区	3,835	2,557	6,391	3,227	3,227	6,454	1,917	4,474
東区	873	582	1,455	735	735	1,469	437	1,019	1,455
南区	4,775	3,183	7,958	4,018	4,018	8,036	2,388	5,571	7,958
西区	3,095	2,064	5,159	2,605	2,605	5,209	1,548	3,611	5,159
安佐南区	1,696	1,131	2,827	1,427	1,427	2,855	848	1,979	2,827
安佐北区	171	114	285	144	144	287	85	199	285
安芸区	999	666	1,664	840	840	1,681	499	1,165	1,664
佐伯区	1,722	1,148	2,869	1,449	1,449	2,897	861	2,009	2,869
合計	17,165	11,444	28,609	14,444	14,444	28,888	8,583	20,026	28,609

地震名	岩国断層帯								
区域	生活支障								
	避難者数 (当日・1日後) (人)			避難者数 (1週間後) (人)			避難者数 (1か月後) (人)		
	避難所	避難所外	合計	避難所	避難所外	合計	避難所	避難所外	合計
	中区	896	597	1,494	747	747	1,494	448	1,046
東区	204	136	340	170	170	340	102	238	340
南区	1,116	744	1,860	930	930	1,860	558	1,302	1,860
西区	723	482	1,206	603	603	1,206	362	844	1,206
安佐南区	396	264	661	330	330	661	198	463	661
安佐北区	40	27	67	33	33	67	20	47	67
安芸区	233	156	389	194	194	389	117	272	389
佐伯区	402	268	671	335	335	671	201	469	671
合計	4,012	2,674	6,686	3,343	3,343	6,686	2,006	4,680	6,686

地震名	安芸灘断層群（広島湾－岩国沖断層帯）								
区域	生活支障								
	避難者数 (当日・1日後) (人)			避難者数 (1週間後) (人)			避難者数 (1か月後) (人)		
	避難所	避難所外	合計	避難所	避難所外	合計	避難所	避難所外	合計
	中区	21,194	10,807	32,002	2,608	1,225	3,833	1,150	2,683
東区	4,825	2,460	7,285	594	279	873	262	611	873
南区	26,390	13,457	39,847	3,248	1,525	4,773	1,432	3,341	4,773
西区	17,107	8,723	25,830	2,105	989	3,094	928	2,166	3,094
安佐南区	9,376	4,781	14,157	1,154	542	1,696	509	1,187	1,696
安佐北区	944	481	1,425	116	55	171	51	120	171
安芸区	5,519	2,814	8,334	679	319	998	299	699	998
佐伯区	9,515	4,852	14,368	1,171	550	1,721	516	1,205	1,721
合計	94,870	48,377	143,247	11,675	5,484	17,159	5,148	12,011	17,159

※ 小数点以下の四捨五入により計が合わない場合がある。

(6) 経済被害（直接被害額）

直接被害額の想定では、被害を受けた施設及び資産の復旧、再建に要する費用を被害額として算定した。直接被害額が最も大きいのは「南海トラフ巨大地震」で2.4兆円となり、続いて「安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震」で1.7兆円、「己斐－広島西縁断層帯による地震で」1.1兆円となる。

民間部門：建物、資産（家庭用品、その他の償却資産、棚卸資産）

準公共部門：電力施設、ガス供給施設、通信施設、鉄道施設

公共部門：上水道施設、下水道施設、公共土木施設（道路、港湾等）、農地・漁港、災害廃棄物処理費用

表1-3-12 直接被害額（冬 18時 風速11m/s）

地震名	南海トラフ巨大地震			地震名	安芸灘～伊予灘～豊後水道		
区域	経済被害 直接被害			区域	経済被害 直接被害		
	(億円)	(億円)	(億円)		(億円)	(億円)	(億円)
	民間	準公共	公共		民間	準公共	公共
中区	3,260	48	534	中区	2,707	70	731
東区	1,192	17	195	東区	902	23	244
南区	6,451	94	1,057	南区	3,530	91	953
西区	3,065	45	502	西区	2,461	63	665
安佐南区	1,942	28	318	安佐南区	970	25	262
安佐北区	449	7	74	安佐北区	443	11	120
安芸区	1,741	25	285	安芸区	1,543	40	417
佐伯区	1,934	28	317	佐伯区	745	19	201
合計	20,035	293	3,282	合計	13,301	342	3,593
合計（民間＋準公共＋公共）			23,610	合計（民間＋準公共＋公共）			17,236
地震名	五日市断層			地震名	己斐－広島西縁断層帯		
区域	経済被害 直接被害			区域	経済被害 直接被害		
	(億円)	(億円)	(億円)		(億円)	(億円)	(億円)
	民間	準公共	公共		民間	準公共	公共
中区	870	15	512	中区	1,198	20	590
東区	228	4	134	東区	532	9	262
南区	628	11	370	南区	754	12	371
西区	1,215	20	716	西区	1,636	27	806
安佐南区	788	13	464	安佐南区	2,202	36	1,084
安佐北区	163	3	96	安佐北区	235	4	116
安芸区	108	2	63	安芸区	136	2	67
佐伯区	1,766	30	1,041	佐伯区	491	8	242
合計	5,766	97	3,398	合計	7,184	119	3,538
合計（民間＋準公共＋公共）			9,261	合計（民間＋準公共＋公共）			10,841
地震名	岩国断層帯			地震名	安芸灘断層群（広島湾－岩国沖断層帯）		
区域	経済被害 直接被害			区域	経済被害 直接被害		
	(億円)	(億円)	(億円)		(億円)	(億円)	(億円)
	民間	準公共	公共		民間	準公共	公共
中区	829	4	516	中区	1,792	53	707
東区	36	0	22	東区	245	7	97
南区	690	4	430	南区	2,012	59	793
西区	579	3	361	西区	1,459	43	575
安佐南区	100	1	63	安佐南区	261	8	103
安佐北区	8	0	5	安佐北区	46	1	18
安芸区	65	0	41	安芸区	585	17	231
佐伯区	210	1	131	佐伯区	1,084	32	428
合計	2,517	13	1,567	合計	7,485	220	2,951
合計（民間＋準公共＋公共）			4,097	合計（民間＋準公共＋公共）			10,656

※ 小数点以下の四捨五入により計が合わない場合がある。

4 小学校区別の総合危険度評価

(1) 危険度の評価基準

これまで本市では、小学校区別に建物、人的、避難、ライフラインの4指標について危険度評価を行い、それらの結果をレーダーチャートで総合的に表現し、自主防災組織の防災まちづくりの活動に生かしてきた。

今回の被害想定の大きな特徴として、「南海トラフ巨大地震」や「安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震」などにおいて、沿岸部では津波災害により甚大な被害を受けることが明らかとなった点が挙げられる。

そこで、各地域における津波災害の危険度を明らかにすることを目的に、人的被害を「津波」と「津波以外」に区分し、建物被害、人的被害（津波以外）、人的被害（津波）、避難者数、ライフライン施設被害の各想定項目の想定項目について、それぞれの基準値（％）に基づき、小学校区別に危険度評価（5段階のランク付け）を実施した。

1 建物被害

建物被害率＝{建物被害棟数(全壊+半壊/2)}／建物棟数

危険度	ランク	基準値(%)
低い ↑	1	0% ≤建物被害率≤ 2.5%
	2	2.5% <建物被害率≤ 5%
	3	5% <建物被害率≤ 10%
↓ 高い	4	10% <建物被害率≤ 20%
	5	20% <建物被害率

2 人的被害(津波以外)

人的被害率(津波以外)＝(死者数+重傷者数)／人口

※)津波以外に要因による死者数、重傷者数を対象

危険度	ランク	基準値(%)
低い ↑	1	0% ≤人的被害率≤ 0.005%
	2	0.005% <人的被害率≤ 0.010%
	3	0.010% <人的被害率≤ 0.015%
↓ 高い	4	0.015% <人的被害率≤ 0.020%
	5	0.020% <人的被害率

3 人的被害(津波)

人的被害率(津波)＝(死者数+重傷者数)／人口

※)津波による死者数、重傷者数を対象

危険度	ランク	基準値(%)
低い ↑	1	0% ≤人的被害率≤ 0.01%
	2	0.01% <人的被害率≤ 0.02%
	3	0.02% <人的被害率≤ 0.03%
↓ 高い	4	0.03% <人的被害率≤ 0.04%
	5	0.04% <人的被害率

4 避難者数

避難者率＝避難者数／人口

危険度	ランク	基準値(%)
低い ↑	1	0% ≤避難者率≤ 2.5%
	2	2.5% <避難者率≤ 5%
	3	5% <避難者率≤ 10%
↓ 高い	4	10% <避難者率≤ 20%
	5	20% <避難者率

5 ライフライン被害

ライフライン被害率＝(断水率+停電率+不通回線率+下水道支障率)

危険度	ランク	基準値(%)
低い ↑	1	0% ≤ライフライン被害率≤ 20%
	2	20% <ライフライン被害率≤ 40%
	3	40% <ライフライン被害率≤ 60%
↓ 高い	4	60% <ライフライン被害率≤ 80%
	5	80% <ライフライン被害率

※断水率＝断水人口／人口

停電率＝停電数／電灯軒数

不通回線率＝不通数／回線数

下水道支障率＝下水道支障人口／人口

(2) 表の見方

小学校区ごとに行った前述の5指標の危険度評価ランク（1～5）を全て合計し、5つの想定地震ごとにランクの計を表示した。ランクの計が大きいほど総合危険度が相対的に高い（最大値 25）。

小学校区ごとに6つの想定地震が起こった場合、どのような被害に遭いやすいのか、事前にどのような対策をとる必要があるかなど、総合的に考える資料として活用してもらいたい。

図1-3-5 校区位置図（中区）



表1-3-13 小学校区別の総合危険度評価の一覧表（中区）

区	学校名	南海トラフ巨大地震						安芸灘～伊予灘～豊後水道						五日市断層						己斐～広島西縁断層帯						岩国断層帯						安芸灘断層群 (広島湾～岩国沖断層帯)					
		A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計
中区	白島小学校	5	2	1	5	3	16	4	5	1	5	3	18	3	5	0	2	3	13	4	5	0	3	4	16	1	1	0	1	1	4	2	1	1	5	2	11
	基町小学校	4	1	1	5	3	14	3	5	1	4	3	16	2	3	0	1	2	8	3	5	0	1	3	12	1	1	0	1	1	4	2	1	1	4	2	10
	櫛町小学校	4	2	5	5	5	21	4	5	5	5	5	24	3	5	0	2	3	13	3	5	0	2	3	13	2	1	0	1	1	5	3	5	5	4	3	20
	袋町小学校	4	1	5	5	5	20	4	5	5	5	4	23	3	5	0	1	3	12	4	5	0	2	3	14	2	1	0	1	1	5	3	5	5	4	4	21
	竹屋小学校	5	2	5	5	5	22	5	5	5	5	5	25	3	5	0	2	2	12	4	5	0	3	2	14	2	1	0	1	1	5	4	5	5	5	4	23
	千田小学校	5	2	5	5	5	22	5	5	5	5	5	25	3	5	0	2	3	13	4	5	0	3	2	14	2	1	0	1	1	5	4	5	5	5	5	24
	中島小学校	5	2	5	5	5	22	5	5	5	5	5	25	3	5	0	2	2	12	3	5	0	3	2	13	3	1	0	1	1	6	4	5	5	5	3	22
	吉島東小学校	5	2	5	5	3	20	4	5	5	5	3	22	3	5	0	2	1	11	3	5	0	3	1	12	3	1	0	1	1	6	4	5	5	5	3	22
	吉島小学校	5	3	5	5	4	22	4	5	5	5	4	23	3	5	0	2	1	11	3	5	0	3	2	13	3	1	0	1	1	6	4	5	5	5	3	22
	広瀬小学校	4	2	1	5	3	15	4	5	1	5	2	17	4	5	0	2	3	14	4	5	0	2	4	15	2	1	0	1	1	5	3	5	1	5	3	17
	本川小学校	5	1	2	5	3	16	4	5	1	5	3	18	4	5	0	2	2	13	4	5	0	2	2	13	2	1	0	1	1	5	3	5	1	5	2	16
	神崎小学校	5	1	5	5	5	21	5	5	5	5	5	25	3	5	0	2	2	12	4	5	0	3	2	14	3	1	0	1	1	6	4	5	5	5	4	23
	舟入小学校	5	2	5	5	5	22	5	5	5	5	5	25	3	5	0	3	2	13	4	5	0	3	2	14	3	1	0	1	1	6	4	5	5	5	5	24
	江波小学校	5	3	5	5	4	22	4	5	5	5	4	23	3	5	0	2	2	12	4	5	0	3	2	14	2	1	0	1	1	5	4	5	5	5	4	23

※ A：建物被害のランク、 B：人的被害（津波以外）のランク、 C：人的被害（津波）のランク、 D：避難者数のランク、 E：ライフライン施設のランク
 表中の網掛けは想定6地震の中で最大となる地震を示す。

図1-3-6 校区位置図（東区）



表1-3-14 小学校区別の総合危険度評価の一覧表（東区）

区	学校名	南海トラフ巨大地震						安芸灘～伊予灘～豊後水道						五日市断層						己斐～広島西縁断層帯						岩国断層帯						安芸灘断層群 (広島湾～岩国沖断層帯)						
		A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	
東区	福木小学校	1	1	1	1	3	7	1	2	1	1	2	7	1	2	0	1	2	6	1	3	0	1	3	8	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	2	6
	温品小学校	2	1	1	3	2	9	3	5	1	3	3	15	1	2	0	1	1	5	2	5	0	1	2	10	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	2	1	6
	上温品小学校	1	1	1	1	1	5	2	5	1	3	2	13	1	2	0	1	1	5	1	5	0	1	2	9	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	1	5
	戸坂小学校	2	1	1	3	3	10	2	4	1	3	3	13	1	2	0	1	2	6	3	5	0	1	3	12	1	1	0	1	1	4	1	1	1	2	2	7	
	戸坂城山小学校	1	1	1	1	1	5	1	2	1	1	1	6	1	1	0	1	1	4	2	5	0	1	1	9	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	1	5
	東浄小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	1	5
	中山小学校	2	1	1	2	2	8	2	5	1	3	3	14	1	2	0	1	2	6	2	5	0	1	2	10	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	2	6
	牛田新町小学校	3	1	1	4	2	11	1	2	1	2	2	8	1	1	0	1	2	5	2	5	0	1	3	11	1	1	0	1	1	4	1	1	1	3	1	7	
	早稲田小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	2	0	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	1	5
	牛田小学校	4	2	1	5	2	14	3	5	1	4	3	16	2	4	0	1	3	10	3	5	0	2	3	13	1	1	0	1	1	4	1	1	1	4	2	9	
	尾長小学校	4	1	5	5	3	18	4	5	5	5	4	23	1	2	0	1	2	6	2	4	0	2	3	11	1	1	0	1	1	4	2	1	1	4	3	11	
	矢賀小学校	4	1	5	5	3	18	4	5	5	4	4	22	1	3	0	1	2	7	2	4	0	2	3	11	1	1	0	1	1	4	2	1	5	4	3	15	

※ A：建物被害のランク、 B：人的被害（津波以外）のランク、 C：人的被害（津波）のランク、 D：避難者数のランク、 E：ライフライン施設のランク
 表中の網掛けは想定6地震の中で最大となる地震を示す。

図1-3-7 校区位置図(南区)



表1-3-15 小学校区別の総合危険度評価の一覧表(南区)

区	学校名	南海トラフ巨大地震						安芸灘～伊予灘～豊後水道						五日市断層						己斐～広島西縁断層帯						岩国断層帯						安芸灘断層群 (広島湾～岩国沖断層帯)					
		A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計
南区	荒神町小学校	5	3	5	5	3	21	4	5	5	5	4	23	2	5	0	2	2	11	3	5	0	2	2	12	1	1	0	1	1	4	3	5	1	5	2	16
	大州小学校	5	2	5	5	5	22	5	5	5	5	5	25	2	3	0	2	3	10	2	5	0	3	3	13	1	1	0	1	1	4	3	1	5	5	5	19
	青崎小学校	5	2	5	5	4	21	3	5	5	4	3	20	1	5	0	2	1	9	2	5	0	2	1	10	1	1	0	1	1	4	2	5	5	5	2	19
	向洋新町小学校	2	1	4	2	3	12	1	1	5	1	2	10	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	2	6
	段原小学校	5	2	5	5	4	21	4	5	5	5	4	23	2	5	0	2	2	11	2	5	0	2	2	11	1	1	0	1	1	4	3	4	5	4	3	19
	比治山小学校	5	1	5	5	5	21	5	5	5	5	5	25	1	2	0	3	3	9	2	3	0	3	3	11	1	1	0	1	2	5	4	1	5	5	5	20
	皆実小学校	5	2	5	5	5	22	5	5	5	5	5	25	3	5	0	3	2	13	3	5	0	3	2	13	3	1	0	1	1	6	4	5	5	5	5	24
	翠町小学校	5	2	5	5	5	22	5	5	5	5	5	25	3	5	0	3	1	12	3	5	0	4	2	14	3	1	0	1	1	6	4	5	5	5	5	24
	大河小学校	5	3	5	5	5	23	4	5	5	5	5	24	2	5	0	2	2	11	2	5	0	3	2	12	1	1	0	1	1	4	3	5	5	5	4	22
	黄金山小学校	3	1	5	4	3	16	2	5	5	3	3	18	1	3	0	1	1	6	1	5	0	1	1	8	1	1	0	1	1	4	1	3	4	3	2	13
	仁保小学校	5	2	5	5	5	22	4	5	5	4	23	2	5	0	2	2	11	2	5	0	2	2	11	1	1	0	1	1	4	3	5	5	5	4	22	
	楠那小学校	3	1	5	4	1	14	3	5	4	4	2	18	1	5	0	1	1	8	2	5	0	1	1	9	1	1	0	1	1	4	2	5	2	3	1	13
	宇品東小学校	5	2	5	5	5	22	5	5	5	5	5	25	2	5	0	3	1	11	3	5	0	3	2	13	2	1	0	1	1	5	4	5	5	5	5	24
	宇品小学校	5	2	5	5	5	22	5	5	5	5	5	25	3	5	0	3	2	13	3	5	0	3	2	13	3	1	0	1	2	7	4	5	5	5	5	24
	元宇品小学校	2	2	2	3	1	10	2	3	1	3	1	10	1	3	0	1	1	6	1	4	0	1	1	7	1	1	0	1	1	4	2	4	1	2	1	10
	似島小学校	3	2	5	4	1	15	1	5	1	3	1	11	1	5	0	1	1	8	1	5	0	1	1	8	1	1	0	1	1	4	3	5	1	3	1	13
	似島学園小学校	4	4	3	5	1	17	4	5	1	5	1	16	2	5	0	2	1	10	2	5	0	2	1	10	2	1	0	1	1	5	3	5	1	5	1	15

※ A：建物被害のランク、 B：人的被害(津波以外)のランク、 C：人的被害(津波)のランク、 D：避難者数のランク、 E：ライフライン施設のランク
 表中の網掛けは想定6地震の中で最大となる地震を示す。

図1-3-8 校区位置図(西区)



表1-3-16 小学校区別の総合危険度評価の一覧表(西区)

区	学校名	南海トラフ巨大地震						安芸灘～伊予灘～豊後水道						五日市断層						己斐-広島西縁断層帯						岩国断層帯						安芸灘断層群 (広島湾-岩国沖断層帯)					
		A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計
西区	大芝小学校	4	3	1	5	2	15	4	5	1	5	3	18	3	5	0	2	2	12	4	5	0	2	3	14	1	1	0	1	1	4	1	1	1	5	1	9
	三篠小学校	4	1	1	5	3	14	3	5	1	4	3	16	3	5	0	1	4	13	4	5	0	2	5	16	1	1	0	1	1	4	1	1	1	4	2	9
	天満小学校	4	2	2	5	4	17	4	5	1	5	3	18	4	5	0	2	2	13	4	5	0	2	4	15	2	1	0	1	2	6	3	5	1	5	2	16
	観音小学校	5	2	5	5	5	22	5	5	5	5	5	25	3	5	0	2	3	13	4	5	0	3	3	15	3	1	0	1	2	7	4	5	5	5	5	24
	南観音小学校	5	3	5	5	5	23	5	5	5	5	5	25	3	5	0	3	5	16	4	5	0	3	5	17	3	1	0	1	4	9	4	5	5	5	5	24
	己斐小学校	3	1	5	4	4	17	3	5	2	4	3	17	3	5	0	1	3	12	3	5	0	1	3	12	1	1	0	1	1	4	1	1	1	3	3	9
	己斐上小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	3	0	1	2	7	2	5	0	1	4	12	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	己斐東小学校	2	1	1	3	2	9	2	5	1	3	2	13	1	4	0	1	2	8	3	5	0	1	4	13	1	1	0	1	1	4	1	1	1	2	1	6
	山田小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	5	0	1	2	9	1	5	0	1	1	8	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	古田台小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	3	0	1	2	7	1	3	0	1	2	7	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	2	6
	古田小学校	4	1	5	5	3	18	3	2	5	4	3	17	3	5	0	1	3	12	3	5	0	1	3	12	1	1	0	1	1	4	2	1	5	4	3	15
	高須小学校	3	1	5	4	3	16	3	4	5	3	3	18	3	5	0	1	2	11	3	5	0	1	2	11	1	1	0	1	1	4	2	1	5	3	3	14
	庚午小学校	5	1	5	5	5	21	5	5	5	5	5	25	3	5	0	2	3	13	4	5	0	3	3	15	1	1	0	1	2	5	4	4	5	5	5	23
	草津小学校	4	2	5	5	5	21	4	5	5	5	5	24	4	5	0	2	3	14	3	5	0	2	3	13	2	1	0	1	2	6	3	5	5	5	5	23
	鈴が峰小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	2	3	0	1	2	8	1	1	0	1	2	5	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	井口台小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	井口小学校	3	1	1	4	2	11	2	5	1	3	2	13	3	5	0	1	3	12	2	5	0	1	2	10	1	1	0	1	2	5	2	1	1	3	3	10
	井口明神小学校	4	1	2	4	4	15	3	5	1	4	5	18	3	5	0	1	4	13	3	5	0	1	3	12	3	1	0	1	4	9	3	5	1	3	5	17

※ A：建物被害のランク、 B：人的被害（津波以外）のランク、 C：人的被害（津波）のランク、 D：避難者数のランク、 E：ライフライン施設のランク
表中の網掛けは想定6地震の中で最大となる地震を示す。

図1-3-9 校区位置図(安佐南区)



表1-3-17 小学校区別の総合危険度評価の一覧表(安佐南区)

区	学校名	南海トラフ巨大地震					安芸灘～伊予灘～豊後水道					五日市断層					己斐～広島西縁断層帯					岩国断層帯					安芸灘断層群 (広島湾～岩国沖断層帯)											
		A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計							
安佐南区	梅林小学校	1	1	1	2	2	7	1	2	1	1	2	7	1	2	0	1	2	6	2	5	0	1	3	11	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	2	6
	八木小学校	1	1	1	1	2	6	1	1	1	1	2	6	1	1	0	1	1	4	1	2	0	1	2	6	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	
	川内小学校	1	1	1	2	3	8	1	2	1	2	2	8	1	2	0	1	2	6	2	5	0	1	3	11	1	1	0	1	1	4	1	1	1	2	2	7	
	緑井小学校	3	1	1	4	2	11	1	2	1	2	2	8	1	2	0	1	2	6	3	5	0	1	3	12	1	1	0	1	1	4	1	1	1	3	2	8	
	東野小学校	4	1	1	5	3	14	3	5	1	4	2	15	1	2	0	1	2	6	3	5	0	1	3	12	1	1	0	1	1	4	1	1	1	4	1	8	
	中筋小学校	4	1	1	5	2	13	3	5	1	4	3	16	2	4	0	1	2	9	4	5	0	2	4	15	1	1	0	1	1	4	1	1	1	4	2	9	
	古市小学校	3	1	1	4	2	11	3	5	1	3	2	14	2	5	0	1	2	10	4	5	0	1	3	13	1	1	0	1	1	4	1	1	1	4	1	8	
	大町小学校	4	2	1	5	2	14	2	4	1	3	2	12	2	3	0	1	3	9	3	5	0	2	3	13	1	1	0	1	1	4	1	1	1	4	2	9	
	毘沙門台小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	3	0	1	2	7	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	
	安東小学校	1	1	1	1	2	6	1	1	1	1	2	6	1	1	0	1	2	5	1	5	0	1	3	10	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	2	6	
	安小学校	1	1	1	1	2	6	1	1	1	1	1	5	1	2	0	1	2	6	2	5	0	1	2	10	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	
	上安小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	
	安北小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	1	0	1	2	5	1	4	0	1	2	8	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	
	安西小学校	1	1	1	1	2	6	1	1	1	1	1	5	1	2	0	1	3	7	2	5	0	1	3	11	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	2	6	
	原南小学校	4	2	1	5	3	15	3	5	1	4	2	15	1	2	0	1	1	5	4	5	0	2	3	14	1	1	0	1	1	4	1	1	1	4	2	9	
	原小学校	4	2	1	5	3	15	3	5	1	4	3	16	2	3	0	2	2	9	4	5	0	2	5	16	1	1	0	1	1	4	1	1	1	5	2	10	
	祇園小学校	4	2	1	5	4	16	3	5	1	4	3	16	3	5	0	1	3	12	4	5	0	2	5	16	1	1	0	1	1	4	1	1	1	4	2	9	
	長東小学校	4	2	1	5	3	15	3	5	1	4	2	15	1	3	0	2	1	7	5	5	0	2	5	17	1	1	0	1	1	4	2	1	1	4	2	10	
	長東西小学校	2	1	1	3	2	9	1	3	1	2	2	9	1	2	0	1	1	5	3	5	0	1	3	12	1	1	0	1	1	4	1	1	1	2	1	6	
	山本小学校	3	1	1	4	3	12	2	5	1	3	2	13	2	5	0	1	3	11	4	5	0	1	4	14	1	1	0	1	1	4	1	1	1	3	2	8	
	春日野小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	2	0	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	
	伴南小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	1	0	1	2	5	1	1	0	1	2	5	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	
	大塚小学校	1	1	1	1	2	6	1	1	1	1	2	6	2	5	0	1	4	12	3	5	0	1	4	13	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	2	6	
	戸山小学校	1	1	1	2	1	6	1	5	1	1	1	9	4	5	0	1	1	11	2	5	0	1	1	9	1	1	0	1	1	4	1	4	1	1	1	8	
	伴小学校	1	1	1	1	4	8	1	1	1	1	3	7	2	5	0	1	5	13	3	5	0	1	5	14	1	1	0	1	1	4	1	1	1	3	7		
	伴東小学校	1	1	1	1	2	6	1	1	1	1	1	5	2	4	0	1	3	10	3	5	0	1	3	12	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	2	6	

※ A：建物被害のランク、 B：人的被害（津波以外）のランク、 C：人的被害（津波）のランク、 D：避難者数のランク、 E：ライフライン施設のランク
表中の網掛けは想定6地震の中で最大となる地震を示す。

図1-3-10 校区位置図(安佐北区)



表1-3-18 小学校区別の総合危険度評価の一覧表(安佐北区)

区	学校名	南海トラフ巨大地震					安芸灘～伊予灘～豊後水道					五日市断層					己斐-広島西縁断層帯					岩国断層帯					安芸灘断層群 (広島湾-岩国沖断層帯)										
		A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計
安佐北区	井原小学校	2	1	1	2	5	11	1	5	1	2	4	13	1	1	0	1	1	4	1	2	0	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	志屋小学校	1	1	1	2	1	6	1	5	1	2	1	10	1	4	0	1	1	7	1	5	0	1	1	8	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	高南小学校	1	1	1	2	5	10	1	5	1	1	5	13	1	2	0	1	2	6	1	2	0	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	2	6
	三田小学校	1	1	1	2	5	10	1	5	1	2	5	14	1	3	0	1	2	7	1	4	0	1	2	8	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	2	6
	狩小川小学校	1	1	1	1	4	8	1	5	1	2	4	13	1	3	0	1	2	7	1	4	0	1	2	8	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	2	6
	深川小学校	1	1	1	1	3	7	1	2	1	2	3	9	1	2	0	1	2	6	1	2	0	1	2	6	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	亀崎小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	真亀小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	倉掛小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	2	6	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	落合東小学校	1	1	1	1	2	6	1	1	1	1	2	6	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	2	5	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	落合小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	2	6	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	2	5	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	口田東小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	2	6	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	2	5	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	口田小学校	2	1	1	3	2	9	2	3	1	2	3	11	1	2	0	1	2	6	3	5	0	1	3	12	1	1	0	1	1	4	1	1	1	2	1	6
	大林小学校	1	1	1	2	2	7	1	5	1	2	2	11	1	4	0	1	1	7	1	5	0	1	1	8	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	三入小学校	1	1	1	2	4	9	1	3	1	1	3	9	1	2	0	1	3	7	1	3	0	1	2	7	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	三入東小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	可部小学校	1	1	1	2	4	9	1	2	1	1	3	8	1	2	0	1	3	7	1	2	0	1	2	6	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	可部南小学校	1	1	1	1	3	7	1	2	1	1	2	7	1	2	0	1	2	6	1	2	0	1	2	6	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	龜山小学校	1	1	1	1	3	7	1	2	1	1	3	8	1	2	0	1	2	6	1	2	0	1	2	6	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	龜山南小学校	1	1	1	1	2	6	1	1	1	1	2	6	1	1	0	1	1	4	1	2	0	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	鈴張小学校	1	1	1	1	1	5	1	2	1	1	1	6	1	2	0	1	1	5	1	2	0	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	小河内小学校	1	2	1	2	5	11	1	5	1	1	3	11	1	5	0	1	3	10	1	5	0	1	2	9	1	1	0	1	1	4	1	4	1	1	1	8
	飯室小学校	1	1	1	1	2	6	1	3	1	1	2	8	1	3	0	1	1	6	1	4	0	1	1	7	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	久地小学校	1	1	1	1	1	5	1	5	1	1	1	9	2	5	0	1	1	9	1	5	0	1	1	8	1	1	0	1	1	4	1	3	1	1	1	7
	久地南小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	2	0	1	2	6	1	2	0	1	2	6	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	筒瀬小学校	1	1	1	1	1	5	1	5	1	1	1	9	1	5	0	1	1	8	2	5	0	1	1	9	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5
	日浦小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	2	5	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5

※ A：建物被害のランク、 B：人的被害（津波以外）のランク、 C：人的被害（津波）のランク、 D：避難者数のランク、 E：ライフライン施設のランク
表中の網掛けは想定6地震の中で最大となる地震を示す。

図1-3-11 校区位置図（安芸区）

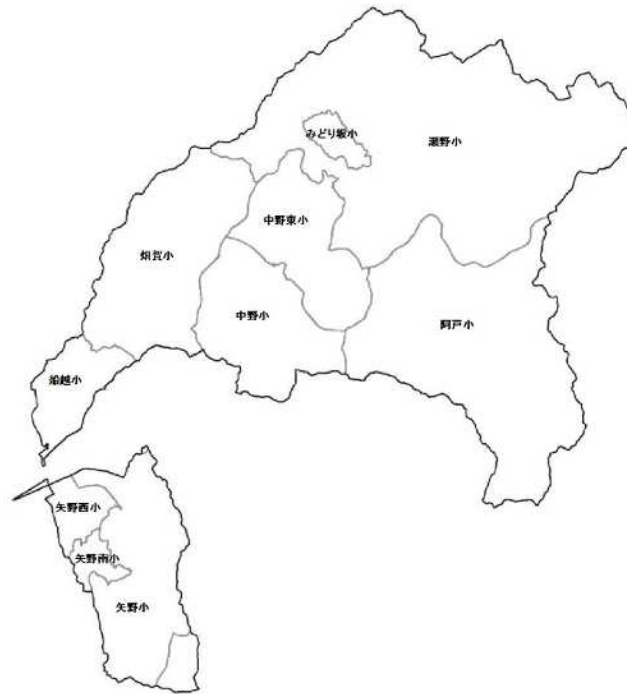


表1-3-19 小学校区別の総合危険度評価の一覧表（安芸区）

区	学校名	南海トラフ巨大地震						安芸灘～伊予灘～豊後水道						五日市断層						己斐-広島西縁断層帯						岩国断層帯						安芸灘断層群 (広島湾-岩国沖断層帯)											
		A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計						
安芸区	瀬野小学校	1	1	1	2	4	9	2	5	1	3	5	16	1	2	0	1	1	5	1	4	0	1	2	8	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5
	みどり坂小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5
	中野小学校	1	1	1	2	3	8	3	5	1	3	4	16	1	2	0	1	2	6	1	3	0	1	2	7	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5
	中野東小学校	1	1	1	2	2	7	2	5	1	3	3	14	1	2	0	1	1	5	1	2	0	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5
	畑質小学校	1	1	1	2	2	7	2	5	1	2	2	12	1	3	0	1	1	6	1	3	0	1	1	6	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5
	阿戸小学校	2	1	1	2	5	11	3	5	1	3	5	17	1	3	0	1	1	6	1	4	0	1	2	8	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	2	6	1	1	1	1	2	6
	船越小学校	5	4	5	5	5	24	5	5	5	5	5	25	1	5	0	3	2	11	2	5	0	4	2	13	1	1	0	1	1	4	4	5	5	5	5	24	4	5	5	5	5	24
	矢野西小学校	4	1	5	5	4	19	3	5	5	4	3	20	1	3	0	1	1	6	1	3	0	2	1	7	1	1	0	1	1	4	1	1	5	4	2	13	1	1	5	4	2	13
	矢野小学校	4	2	5	5	5	21	3	5	5	4	4	21	1	3	0	1	2	7	1	3	0	2	2	8	1	1	0	1	2	5	1	1	5	4	3	14	1	1	5	4	3	14
	矢野南小学校	1	1	1	1	2	6	1	1	1	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	5

※ A：建物被害のランク、 B：人的被害（津波以外）のランク、 C：人的被害（津波）のランク、 D：避難者数のランク、 E：ライフライン施設のランク
 表中の網掛けは想定6地震の中で最大となる地震を示す。

図1-3-12 校区位置図(佐伯区)



表1-3-20 小学校区別の総合危険度評価の一覧表(佐伯区)

区	学校名	南海トラフ巨大地震						安芸灘～伊予灘～豊後水道						五日市断層						己斐～広島西縁断層帯						岩国断層帯						安芸灘断層群 (広島湾～岩国沖断層帯)					
		A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計	A	B	C	D	E	計
佐伯区	湯来東小学校	1	1	1	1	1	5	1	5	1	1	2	10	2	5	0	1	2	10	1	4	0	1	1	7	1	1	0	1	1	4	1	3	1	1	1	7
	湯来西小学校	1	3	1	1	1	7	1	5	1	1	9	1	5	0	1	1	8	1	5	0	1	1	8	1	1	0	1	1	4	1	5	1	1	1	9	
	湯来南小学校	1	1	1	1	3	7	1	1	1	1	6	1	5	0	1	4	11	1	2	0	1	2	6	1	1	0	1	2	5	1	1	1	1	3	7	
	石内小学校	1	1	1	1	3	7	1	3	1	1	9	3	5	0	1	5	14	3	5	0	1	5	14	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	3	7	
	河内小学校	1	1	1	1	2	6	1	3	1	1	8	4	5	0	1	4	14	2	5	0	1	3	11	1	1	0	1	2	5	1	1	1	1	3	7	
	五月が丘小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	2	5	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	
	藤の木小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	5	1	5	0	1	2	9	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	
	彩が丘小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	
	美鈴が丘小学校	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	5	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	0	1	1	4	1	1	1	1	1	5	
	八幡東小学校	3	1	1	4	3	12	1	2	1	1	2	7	4	5	0	1	5	15	2	5	0	1	3	11	1	1	0	1	2	5	2	1	1	3	4	11
	八幡小学校	1	1	1	1	2	6	1	1	1	1	5	3	5	0	1	5	14	1	3	0	1	2	7	1	1	0	1	2	5	1	1	1	1	3	7	
	五日市観音西小学校	1	1	1	1	2	6	1	2	1	1	2	7	3	5	0	1	4	13	1	3	0	1	2	7	1	1	0	1	2	5	1	1	1	1	3	7
	五日市観音小学校	3	1	1	4	3	12	1	3	1	2	2	9	4	5	0	1	4	14	2	4	0	1	2	9	1	1	0	1	2	5	2	1	1	3	4	11
	五日市中央小学校	5	3	1	5	3	17	2	5	1	3	14	4	5	0	2	4	15	2	4	0	3	2	11	1	1	0	1	3	6	3	1	1	5	3	13	
	五日市小学校	4	3	2	5	4	18	2	5	1	3	4	15	4	5	0	2	5	16	2	4	0	3	3	12	1	1	0	1	3	6	3	3	1	5	5	17
	五日市東小学校	4	2	1	5	2	14	2	2	1	2	2	9	4	5	0	2	4	15	3	5	0	2	2	12	1	1	0	1	2	5	3	1	1	4	3	12
	五日市南小学校	5	2	5	5	4	21	4	5	5	5	4	23	4	5	0	2	5	16	2	5	0	3	2	12	2	1	0	1	3	7	4	5	1	5	5	20
	楽々園小学校	4	3	5	5	4	21	4	5	5	5	4	23	4	5	0	2	5	16	2	5	0	2	1	10	2	1	0	1	2	6	4	5	5	5	5	24

※ A：建物被害のランク、 B：人的被害（津波以外）のランク、 C：人的被害（津波）のランク、 D：避難者数のランク、 E：ライフライン施設のランク
表中の網掛けは想定6地震の中で最大となる地震を示す。

第4 中央防災会議防災対策推進検討会「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」による調査・検討

南海トラフ巨大地震が発生した場合の調査・検討結果は次のとおり。

区 分		全国	広島県
地震規模		マグニチュード 9.0	
最大震度		7	6強
人的被害（死者） ※冬・深夜に発生した場合	建物倒壊	約 82,000 人	約 700 人
	津波	約 117,000 人 ～約 230,000 人	約 60 人
	急傾斜地崩壊	約 600 人	約 20 人
	火災	約 8,600 人 ～約 10,000 人	—
	ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物	約 30 人	—
	計	約 208,230 人 ～約 322,630 人	約 800 人
	堤防・水門の機能不全による津波の死者増分	約 15,000 人 ～約 23,000 人	約 1,000 人
	計	約 223,230 人 ～約 345,630 人	約 1,800 人
建物被害（全壊） ※冬・夕方に発生した場合	揺れ	約 1,346,000 棟	約 11,000 棟
	液状化	約 134,000 棟	約 12,000 棟
	津波	約 144,000 棟	約 200 棟
	急傾斜地崩壊	約 6,500 棟	約 300 棟
	火災	約 2,314,000 棟 ～約 2,371,000 棟	約 1,100 棟
	計	約 3,944,500 棟 ～約 4,001,500 棟	約 24,000 棟
	堤防・水門の機能不全による津波による建物被害の増分	約 21,000 棟	約 1,800 棟
	計	約 3,965,500 棟 ～約 4,022,500 棟	約 25,800 棟

※ 四捨五入により計が合わない場合がある。

※ 人的被害の津波は、避難意識の高低を考慮し、人的被害と建物被害の火災は、風速を考慮し、それぞれ幅をもって示している。

第5 想定地震の今後の発生確率

地震調査研究推進本部地震調査委員会が評価した今後の地震発生確率は次のとおり。

1 プレート内地震、海溝型地震

想定地震	今後の発生確率			平均発生間隔
	10年以内	30年以内	50年以内	最新発生年月日
南海トラフ地震	30%	70%～80%	90%程度 もしくは それ以上	次回までの標準的な値 88.2年 78.0年前
安芸灘～伊予灘～豊後水道のプレート内地震	20%程度	40%程度	60%程度	60.3年 —

評価時点は、令和6年（2024年）1月1日

2 活断層型地震

想定地震	今後の発生確率			平均発生間隔
	30年以内	50年以内	100年以内	最新活動時期
岩国－五日市断層帯(五日市断層区間)による地震	平均活動間隔が判明していない等の理由により、地震発生確率及び地震後経過率を求めることができない。			不明
岩国－五日市断層帯(己斐断層区間)による地震				7世紀以後－12世紀以前
岩国－五日市断層帯(岩国断層区間)による地震	0.03%～2%	0.05%～3%	0.1%～6%	約9,000年－18,000年 約10,000年前－11,000年前
安芸灘断層帯による地震※	0.1%～10%	0.2%～20%	0.4%～30%	2,300－6,400年程度 約5,600年前以後－ 約3,600年前以前
広島湾－岩国沖断層帯による地震※	平均活動間隔が判明していない等の理由により、地震発生確率及び地震後経過率を求めることができない。			不明
				不明

評価時点は、令和6年（2024年）1月1日

※ 安芸灘断層群は平成28年から、新たな知見により、断層の位置関係や連続性を再整理し、「安芸灘断層帯」、「広島湾－岩国沖断層帯」の2つの断層帯に区分されている。

気象庁震度階級関連解説表

使用にあたっての留意事項

- (1) 気象庁が発表している震度は、原則として地表や低層建物の一階に設置した震度計による観測値です。この資料は、ある震度が観測された場合、その周辺で実際にどのような現象や被害が発生するかを示すもので、それぞれの震度に記述される現象から震度が決定されるものではありません。
- (2) 地震動は、地盤や地形に大きく影響されます。震度は震度計が置かれている地点での観測値であり、同じ市町村であっても場所によって震度が異なることがあります。また、中高層建物の上層階では一般に地表より揺れが強くなるなど、同じ建物の中でも、階や場所によって揺れの強さが異なります。
- (3) 震度が同じであっても、地震動の振幅（揺れの大きさ）、周期（揺れが繰り返す時の1回あたりの時間の長さ）及び継続時間などの違いや、対象となる建物や構造物の状態、地盤の状況により被害は異なります。
- (4) この資料では、ある震度が観測された際に発生する被害の中で、比較的多く見られるものを記述しており、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。また、それぞれの震度階級で示されている全ての現象が発生するわけではありません。
- (5) この資料は、主に近年発生した被害地震の事例から作成したものです。今後、5年程度で定期的に内容を点検し、新たな事例が得られたり、建物・構造物の耐震性の向上等によって実状と合わなくなった場合には変更します。
- (6) この資料では、被害などの量を概数で表せない場合に、一応の目安として、次の副詞・形容詞を用いています。

用語	意味
まれに	極めて少ない。めったにない。
わずか	数量・程度が非常に少ない。ほんの少し。
大半	半分以上。ほとんどよりは少ない。
ほとんど	全部ではないが、全部に近い。
が（も）ある、 が（も）いる	当該震度階級に特徴的に現れ始めることを表し、量的には多くはないがその数量・程度の概数を表現できかねる場合に使用。
多くなる	量的に表現できかねるが、下位の階級より多くなることを表す。
さらに多くなる	上記の「多くなる」と同じ意味。下位の階級で上記の「多くなる」が使われている場合に使用。

※ 気象庁では、アンケート調査などにより得られた震度を公表することがありますが、これらは「震度〇相当」と表現して、震度計の観測から得られる震度と区別しています。

●人の体感・行動、屋内の状況、屋外の状況

震度階級	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
0	人は揺れを感じないが、地震計には記録される。	—	—
1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	—	—
2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には、目を覚ます人もいる。	電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。	—
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。眠っている人の大半が、目を覚ます。	棚にある食器類が音を立てることがある。	電線が少し揺れる。
4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。	電線が大きく揺れる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。
5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。
5強	大半の人が、物につかまらなさと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが増える。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
6弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が増える。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
7	揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ばされることもある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに増える。補強されているブロック塀も破損するものがある。

● 木造建物（住宅）の状況

震度階級	木造建物(住宅)	
	耐震性が高い	耐震性が低い
5弱	—	壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。
5強	—	壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。
6弱	壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。	壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。 壁などに大きなひび割れ・亀裂が入ることがある。 瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。
6強	壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。	壁などに大きなひび割れ・亀裂が入るものが多くなる。 傾くものや、倒れるものが多くなる。
7	壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。 まれに傾くことがある。	傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。

(注1) 木造建物(住宅)の耐震性により2つに区分けした。耐震性は、建築年代の新しいものほど高い傾向があり、概ね昭和56年(1981年)以前は耐震性が低く、昭和57年(1982年)以降には耐震性が高い傾向がある。しかし、構法の違いや壁の配置などにより耐震性に幅があるため、必ずしも建築年代が古いというだけで耐震性の高低が決まるものではない。既存建築物の耐震性は、耐震診断により把握することができる。

(注2) この表における木造の壁のひび割れ、亀裂、損壊は、土壁(割り竹下地)、モルタル仕上壁(ラス、金網下地を含む)を想定している。下地の弱い壁は、建物の変形が少ない状況でも、モルタル等が剥離し、落下しやすくなる。

(注3) 木造建物の被害は、地震の際の地震動の周期や継続時間によって異なる。平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震のように、震度と比べ建物被害が少ない事例もある。

● 鉄筋コンクリート造建物の状況

震度階級	鉄筋コンクリート造建物	
	耐震性が高い	耐震性が低い
5強	—	壁、梁(はり)、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が入ることがある。
6弱	壁、梁(はり)、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が入ることがある。	壁、梁(はり)、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が多くなる。
6強	壁、梁(はり)、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂が多くなる。	壁、梁(はり)、柱などの部材に、斜めや X 状のひび割れ・亀裂がみられることがある。 1階あるいは中間階の柱が崩れ、倒れるものがある。
7	壁、梁(はり)、柱などの部材に、ひび割れ・亀裂がさらに多くなる。 1階あるいは中間階が変形し、まれに傾くものがある。	壁、梁(はり)、柱などの部材に、斜めや X 状のひび割れ・亀裂が多くなる。 1階あるいは中間階の柱が崩れ、倒れるものが多くなる。

(注1) 鉄筋コンクリート造建物では、建築年代の新しいものほど耐震性が高い傾向があり、概ね昭和56年(1981年)以前は耐震性が低く、昭和57年(1982年)以降は耐震性が高い傾向がある。しかし、構造形式や平面的、立面的な耐震壁の配置により耐震性に幅があるため、必ずしも建築年代が古いというだけで耐震性の高低が決まるものではない。既存建築物の耐震性は、耐震診断により把握することができる。

(注2) 鉄筋コンクリート造建物は、建物の主体構造に影響を受けていない場合でも、軽微なひび割れがみられることがある。

● 地盤・斜面等の状況

震度階級	地盤の状況	斜面等の状況
5弱	亀裂 ^{※1} や液状化 ^{※2} が生じることがある。	落石やがけ崩れが発生することがある。
5強		
6弱	地割れが生じることがある。	がけ崩れや地すべりが発生することがある。
6強	大きな地割れが生じることがある。	がけ崩れが多発し、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある ^{※3} 。
7		

※1 亀裂は、地割れと同じ現象であるが、ここでは規模の小さい地割れを亀裂として表記している。

※2 地下水位が高い、ゆるい砂地盤では、液状化が発生することがある。液状化が進行すると、地面からの泥水の噴出や地盤沈下が起こり、堤防や岸壁が壊れる、下水管やマンホールが浮き上がる、建物の土台が傾いたり壊れたりするなどの被害が発生することがある。

※3 大規模な地すべりや山体の崩壊等が発生した場合、地形等によっては天然ダムが形成されることがある。また、大量の崩壊土砂が土石流化することもある。

● ライフライン・インフラ等への影響

ガス供給の停止	安全装置のあるガスメーター（マイコンメーター）では震度5弱程度以上の揺れで遮断装置が作動し、ガスの供給を停止する。 さらに揺れが強い場合には、安全のため地域ブロック単位でガス供給が止まることもある [※] 。
断水、停電の発生	震度5弱程度以上の揺れがあった地域では、断水、停電が発生することがある [※] 。
鉄道の停止、高速道路の規制等	震度4程度以上の揺れがあった場合には、鉄道、高速道路などで、安全確認のため、運転見合わせ、速度規制、通行規制が、各事業者の判断によって行われる。（安全確認のための基準は、事業者や地域によって異なる。）
電話等通信の障害	地震災害の発生時、揺れの強い地域やその周辺の地域において、電話・インターネット等による安否確認、見舞い、問合せが増加し、電話等がつながりにくい状況（ふくそう）が起こることがある。 そのための対策として、震度6弱程度以上の揺れがあった地震などの災害の発生時に、通信事業者により災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板などの提供が行われる。
エレベーターの停止	地震管制装置付きのエレベーターは、震度5弱程度以上の揺れがあった場合、安全のため自動停止する。運転再開には、安全確認などのため、時間がかかることがある。

※ 震度6強程度以上の揺れとなる地震があった場合には、広い地域で、ガス、水道、電気の供給が停止することがある。

● 大規模構造物への影響

長周期地震動 [※] による超高層ビルの揺れ	超高層ビルは固有周期が長い、固有周期が短い一般の鉄筋コンクリート造建物に比べて地震時に作用する力が相対的に小さくなる性質を持っている。しかし、長周期地震動に対しては、ゆっくりとした揺れが長く続き、揺れが大きい場合には、固定の弱いOA機器などが大きく移動し、人も固定しているものにつかまらなると、同じ場所にいられない状況となる可能性がある。
石油タンクのスロッシング	長周期地震動により石油タンクのスロッシング（タンク内溶液の液面が大きく揺れる現象）が発生し、石油がタンクから溢れ出たり、火災などが発生したりすることがある。
大規模空間を有する施設の天井等の破損、脱落	体育館、屋内プールなど大規模空間を有する施設では、建物の柱、壁など構造自体に大きな被害を生じない程度の地震動でも、天井等が大きく揺れたりして、破損、脱落することがある。

※ 規模の大きな地震が発生した場合、長周期の地震波が発生し、震源から離れた遠方まで到達して、平野部では地盤の固有周期に応じて長周期の地震波が増幅され、継続時間も長くなることがある。